

印西市立小学校及び中学校の適正配置について

資料編

～ 生きる力を持ち未来を拓くこどもを育むために ～

平成28年 月

印西市学校適正配置審議会

【資料編】

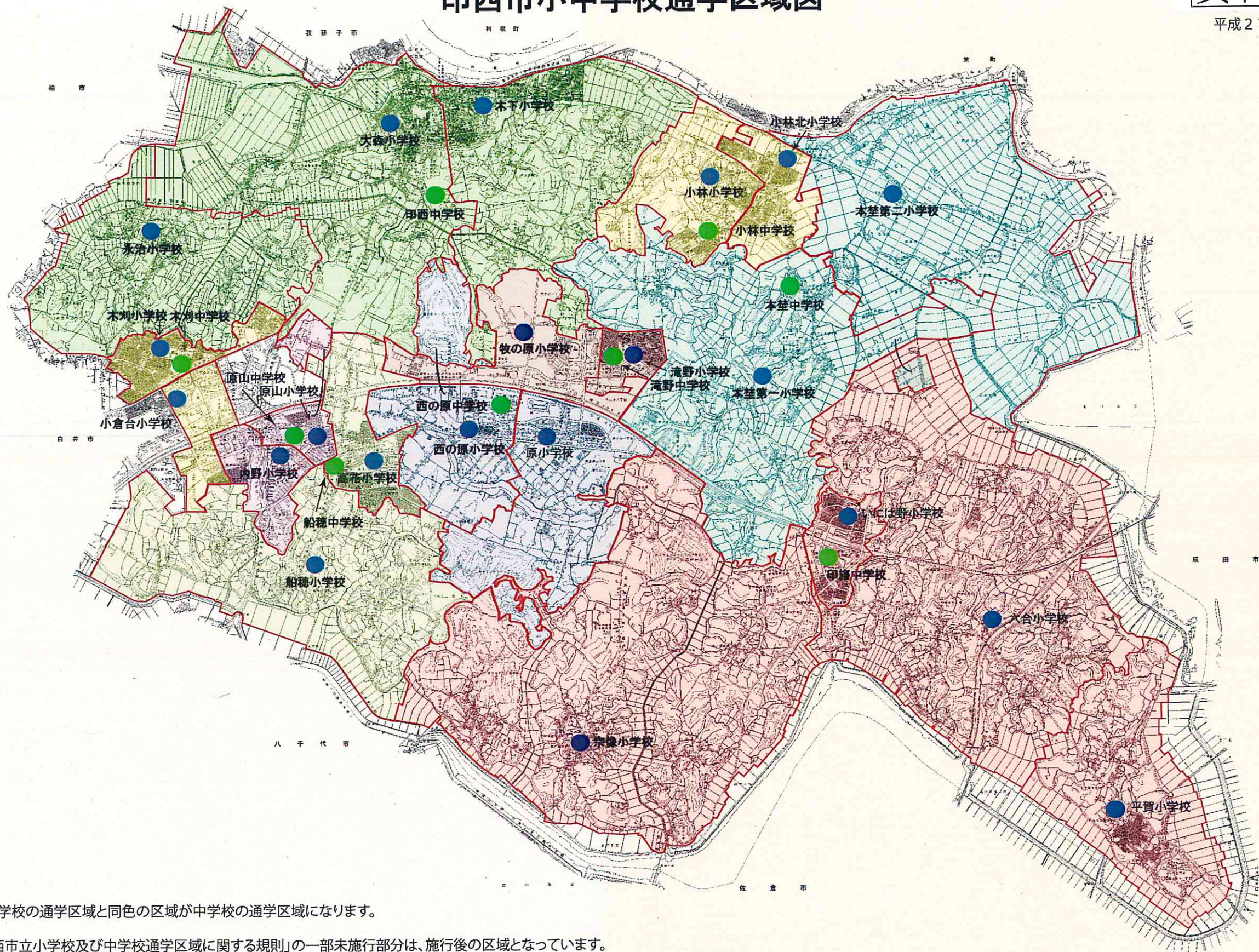
- 資料1 印西市立小・中学校の通学区域図
- 資料2-1 印西市立小・中学校の児童生徒数と学級数の推移「表」
- 資料2-2 印西市立小・中学校の児童生徒数の推移「グラフ」
- 資料2-3 印西市立小・中学校の学級数の現状と推移
- 資料3-1 住宅系開発事業予定位置図「千葉ニュータウン中央駅圏」
- 資料3-2 住宅系開発事業予定位置図「印西牧の原駅圏」
- 資料3-3 住宅系開発事業予定位置図「印旛日本医大駅圏」
- 資料4 学区外就学の状況
- 資料5 スクールバスの運行状況
- 資料6-1 学校適正配置シミュレーション（案）「総括表」
- 資料6-2 学校適正配置シミュレーション（案）【小学校】「図」
- 資料6-3 学校適正配置シミュレーション（案）「組み合わせ表」
- 資料7 印西市立小・中学校の学校運営費及び学校新設費
- 資料8-1 印西市学校適正配置審議会設置条例
- 資料8-2 印西市学校適正配置審議会委員名簿
- 資料8-3 諮問書
- 資料8-4 印西市学校適正配置審議会の審議経過

参考資料 印西市における小・中学校適正規模の考え方

印西市小中学校通学区域図

資料 1

平成27年5月



※各小学校の通学区域と同色の区域が中学校の通学区域になります。

※「印西市立小学校及び中学校通学区域に関する規則」の一部未施行部分は、施行後の区域となっています。

小学校の児童数・学級数の推移

	教室 総数 (H27)	特別 支援 学級数 (H27)	H27			H28			H29			H30			H31			H32			H33		
			児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数	児童数	学級数	複式 学級数
木下小	17	2	381	12		378	12		360	12		347	12		327	12		311	12		282	11	
小林小	17	2	121	6		131	6		140	6		150	6		170	6		184	6		191	6	
大森小	16	2	217	7		216	7		199	6		190	6		185	6		183	6		178	6	
船穂小	7	2	51	5	1	52	6		51	6		60	6		61	6		55	6		50	5	1
永治小	6	0	31	5		30	5		25	4	1	25	4	1	25	4	1	32	5	1	34	5	1
木刈小	26	2	483	16		516	17		517	17		540	18		528	17		488	16		444	15	
内野小	26	2	344	12		346	12		342	12		352	12		345	12		334	12		335	12	
原山小	24	2	219	9		219	8		214	8		218	9		213	8		205	7		190	6	
小林北小	15	2	172	6		170	6		171	6		168	6		159	6		146	6		138	6	
小倉台小	29	3	816	25		890	26		1,002	29		1,074	31		1,116	33		1,119	34		1,113	34	
高花小	28	2	308	11		298	11		311	12		305	12		290	12		271	12		250	11	
西の原小	25	2	386	12		383	12		401	13		402	13		423	14		421	14		418	13	
原小	24	2	713	23		737	23		765	23		797	24		803	24		774	24		733	23	
六合小	14	2	88	6		87	6		95	6		97	6		96	6		98	6		99	6	
宗像小	8	1	36	5		27	4	1	28	4	1	34	5	1	40	5	1	43	5	1	44	6	
平賀小	13	2	112	6		113	6		113	6		106	6		97	6		86	6		81	6	
いには野小	22	4	497	18		492	17		480	16		463	15		440	14		414	14		389	13	
本埜第一小	7	1	45	5	1	45	5	1	55	5	1	67	6		73	6		79	6		78	6	
本埜第二小	7	1	67	6		58	6		52	6		44	6		44	5	1	39	5	1	36	5	1
滝野小	21	2	405	14		393	13		347	12		314	11		294	11		253	10		222	8	
牧の原小	18	0	61	6		78	6		102	6		120	6		134	6		152	6		157	6	
合計	370	38	5,553	215	2	5,659	214	2	5,770	215	3	5,873	220	2	5,863	219	3	5,687	218	3	5,462	209	3

中学校の生徒数・学級数の推移

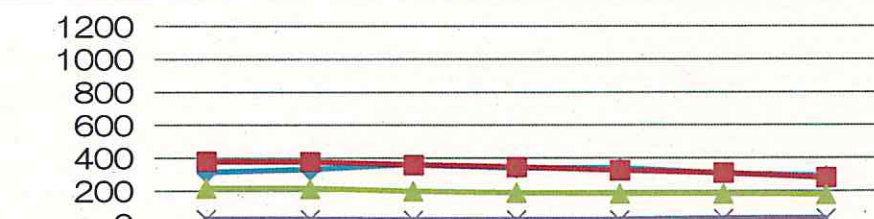
	教室 総数 (H27)	特別 支援 学級数 (H27)	H27			H28			H29			H30			H31			H32			H33		
			生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数	生徒数	学級数	複式 学級数
印西中	19	2	313	10		329	10		361	11		339	11		339	10		307	9		290	9	
船穂中	16	1	166	6		178	7		167	6		169	6		160	6		184	6		190	6	
木刈中	24	2	405	12		428	13		463	14		520	16		590	17		692	19		779	22	
小林中	15	2	190	7		192	7		173	7		140	6		138	6		145	6		153	6	
原山中	21	2	272	9		267	9		277	9		280	9		285	9		288	9		283	9	
西の原中	17	2	394	13		441	13		483	14		513	15		513	15		545	16		586	18	
印旛中	19	2	427	13		418	13		379	12		373	12		377	12		375	12		360	11	
本埜中	7	2	59	3		64	3		65	3		65	3		52	3		51	3		47	3	
滝野中	11	2	260	8		245	8		241	8		239	8		231	8		225	7		227	7	
総合計	149	17	2,486	81	0	2,562	83	0	2,609	84	0	2,638	86	0	2,685	86	0	2,812	87	0	2,915	91	0

- 【注意事項】 (1) 児童生徒数及び学級数は、通常学級のみ。
(2) 学級数は、千葉県学級編制基準 (H27) により算出。(H27は実学級数、H28以降は増置活用による複式学級解消を見込んでいる。)
(3) H28年度以降は、住民基本台帳データに基づき推計。

【各中学校区別 小・中学校の児童数生徒数の推移】

印西中学校区

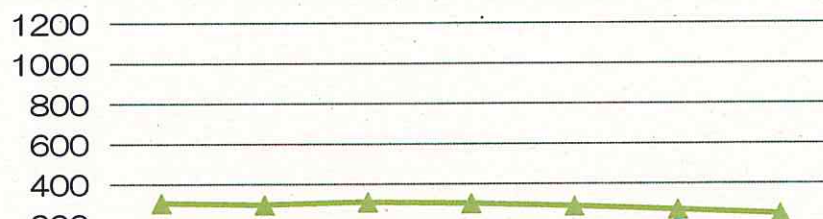
● 印西中学校 ● 木下小学校 ▲ 大森小学校 × 永治小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
印西中学校	313	329	361	339	339	307	290
木下小学校	381	378	360	347	327	311	282
大森小学校	217	216	199	190	185	183	178
永治小学校	31	30	25	25	25	32	34

船穂中学校区

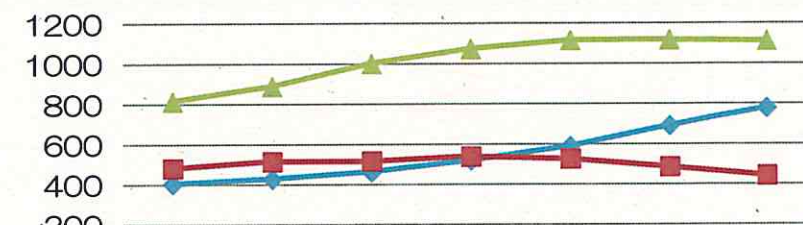
● 船穂中学校 ● 船穂小学校 ▲ 高花小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
船穂中学校	166	178	167	169	160	184	190
船穂小学校	51	52	51	60	61	55	50
高花小学校	308	298	311	305	290	271	250

木刈中学校区

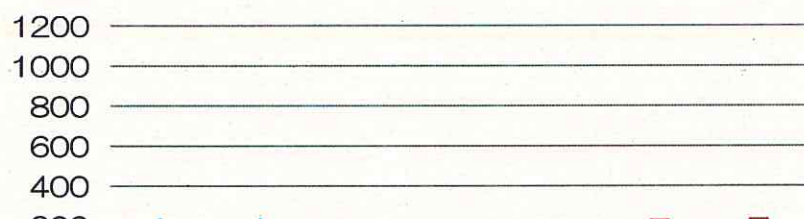
● 木刈中学校 ● 木刈小学校 ▲ 小倉台小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
木刈中学校	405	428	463	520	590	692	779
木刈小学校	483	516	517	540	528	488	444
小倉台小学校	816	890	1,002	1,074	1,116	1,119	1,113

小林中学校区

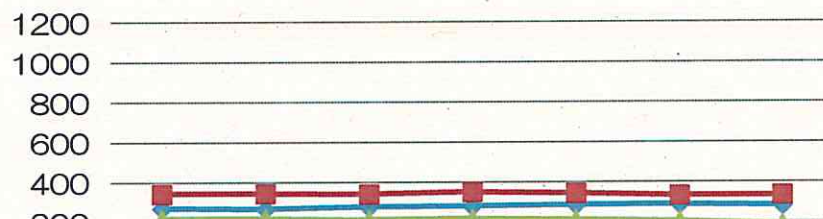
● 小林中学校 ● 小林小学校 ▲ 小林北小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
小林中学校	190	192	173	140	138	145	153
小林小学校	121	131	140	150	170	184	191
小林北小学校	172	170	171	168	159	146	138

原山中学校区

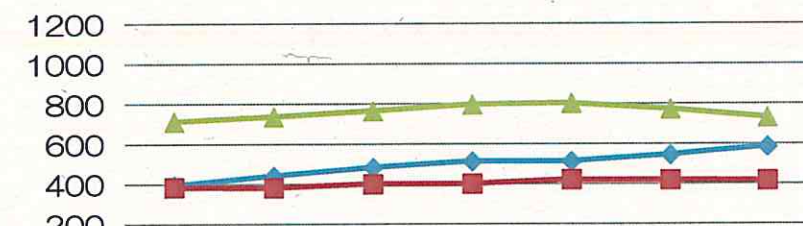
● 原山中学校 ● 内野小学校 ▲ 原山小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
原山中学校	272	267	277	280	285	288	283
内野小学校	344	346	342	352	345	334	335
原山小学校	219	219	214	218	213	205	190

西の原中学校区

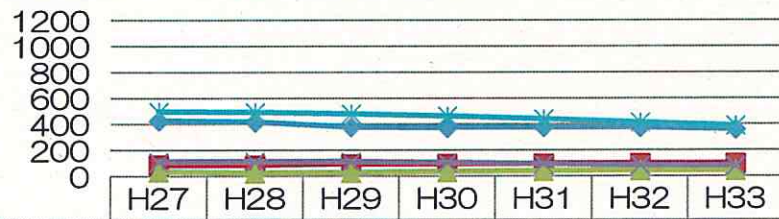
● 西の原中学校 ● 西の原小学校 ▲ 原小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
西の原中学校	394	441	483	513	513	545	586
西の原小学校	386	383	401	402	423	421	418
原小学校	713	737	765	797	803	774	733

印旛中学校区

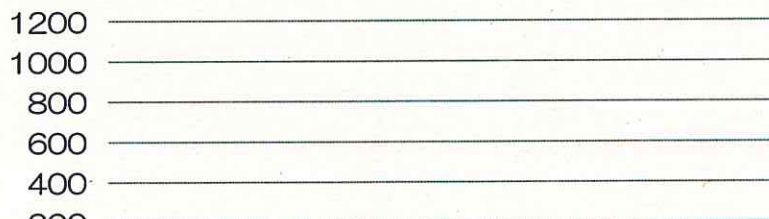
● 印旛中学校 ● 六合小学校 ▲ 宗像小学校
× 平賀小学校 × いには野小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
印旛中学校	427	418	379	373	377	375	360
六合小学校	88	87	95	97	96	98	99
宗像小学校	36	27	28	34	40	43	44
平賀小学校	112	113	113	106	97	86	81
いには野小学校	497	492	480	463	440	414	389

本埜中学校区

● 本埜中学校 ● 本埜第一小学校 ▲ 本埜第二小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
本埜中学校	59	64	65	65	52	51	47
本埜第一小学校	45	45	55	67	73	79	78
本埜第二小学校	67	58	52	44	44	39	36

滝野中学校区

● 滝野中学校 ● 滝野小学校 ▲ 牧の原小学校



	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
滝野中学校	260	245	241	239	231	225	227
滝野小学校	405	393	347	314	294	253	222
牧の原小学校	61	78	102	120	134	152	157

※中学校区児童生徒数は、資料 4-3 によるもの

小中学校の学級数の現状と推移について

○小学校

H27 (現状)					学級数	H33 (推計)					
					35						
					34	小倉台 (1113)					
					33						
					32						
					31						
					30						
					29						
					28						
					27						
					26						
					25	小倉台 (816)					
					24						
					23	原 (713)	原 (733)				
					22						
					21						
					20						
					19						
					18	いには野 (497)					
					17						
					16	木刈 (483)					
					15		木刈 (444)				
					14	滝野 (405)					
					13		いには野 (389)	西の原 (418)			
					12	西の原 (386)	木下 (381)	内野 (344)	内野 (335)		
					11			高花 (308)	高花 (250)	木下 (282)	
					10						
					9			原山 (219)			
					8				滝野 (222)		
					7			大森 (217)			
					6	小林北 (172)	小林 (121)	平賀 (112)	六合 (88)	本埜第二 (67)	牧の原 (61)
					5			船穂 (51)	本埜第一 (45)	宗像 (36)	永治 (31)
					4						
					3						
					2						
					1						

○中学校

平成27年5月1日現在

H27 (現状)	学級数	H33 (推計)		
	35			
	34			
	33			
	32			
	31			
	30			
	29			
	28			
	27			
	26			
	25			
	24			
	23			
	22	木刈 (779)		
	21			
	20			
	19			
	18	西の原 (586)		
	17			
	16			
	15			
	14			
印旛 (427)	13	西の原 (394)		
	12	木刈 (405)		
	11	印旛 (360)		
	10	印西 (313)		
	9	原山 (272)		
	8	原山 (283)	印西 (290)	
	7	滝野 (260)		
	6	小林 (190)	滝野 (227)	
	5	船穂 (166)	小林 (153)	船穂 (190)
	4			
	3	本埜 (59)	本埜 (47)	
	2			
	1			

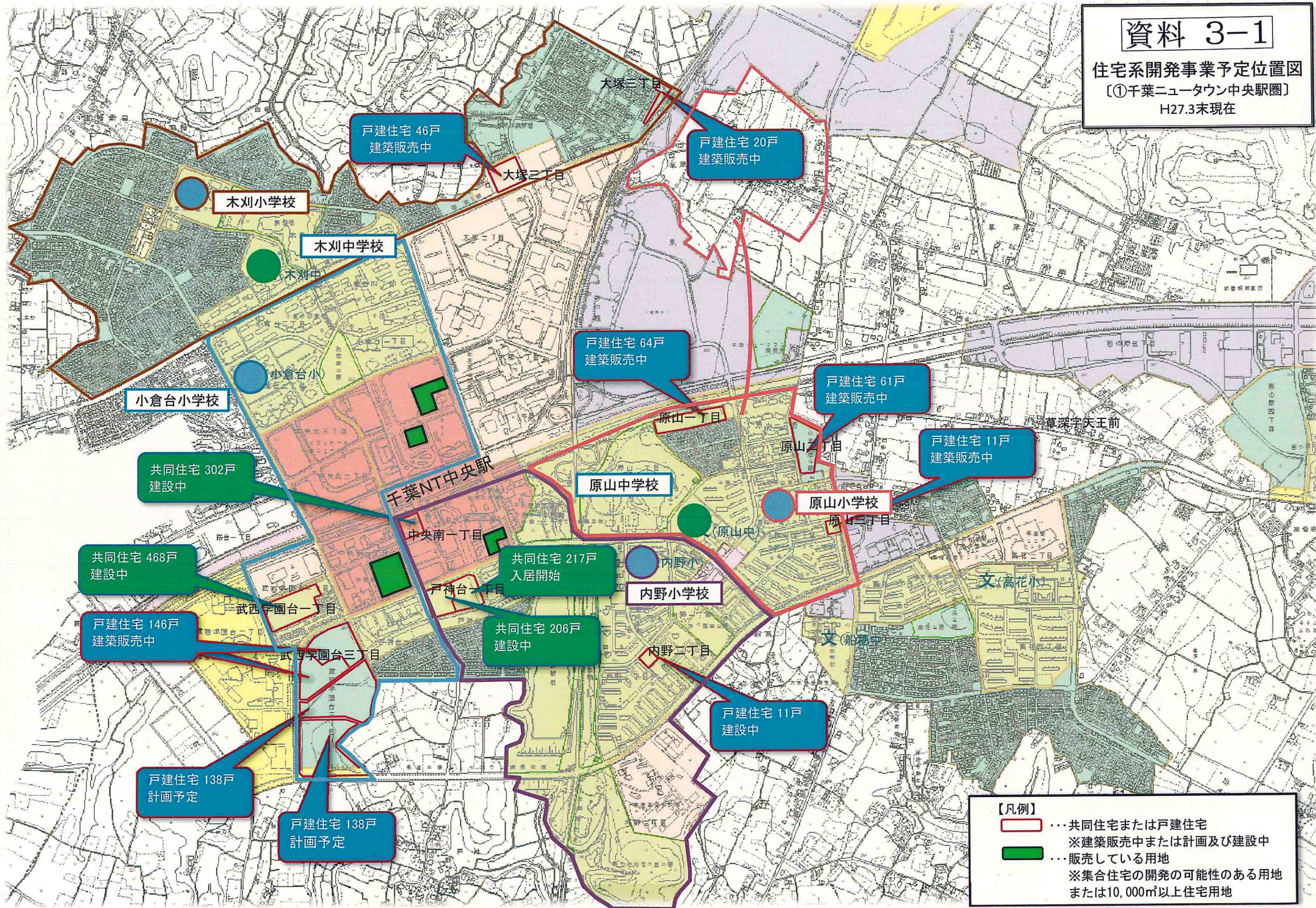
※児童生徒数及び学級数は、資料4-3によるもの

資料 3-1

住宅系開発事業予定位置図

〔①千葉ニュータウン中央駅圏〕

H27.3末現在

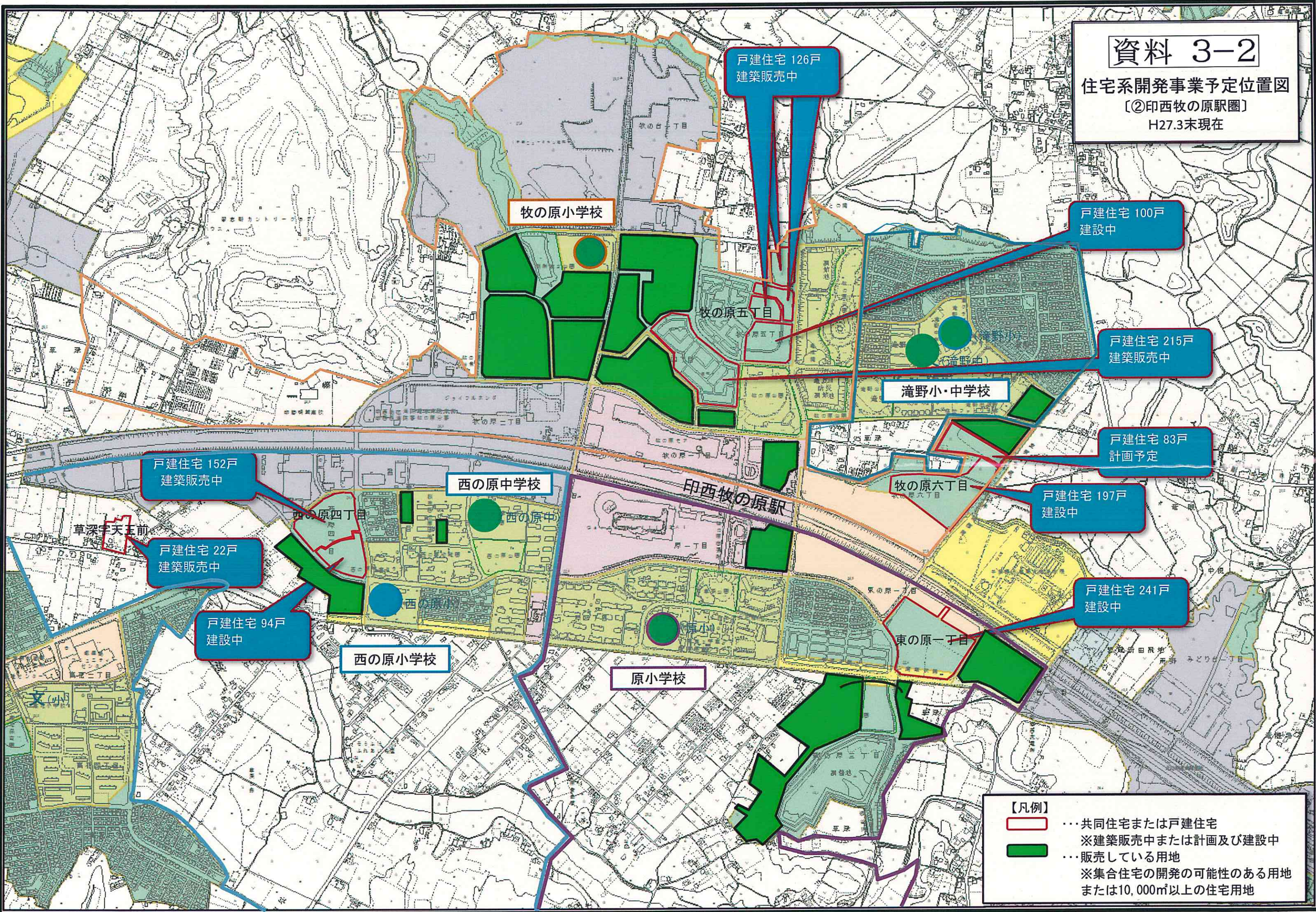


【凡例】

- Red outline: ... 共同住宅または戸建住宅 ※建築販売中または計画及び建設中
- Green outline: ... 販売している用地 ※集合住宅の開発の可能性のある用地 または10,000㎡以上住宅用地

資料 3-2

住宅系開発事業予定位置図
〔②印西牧の原駅圏〕
H27.3末現在

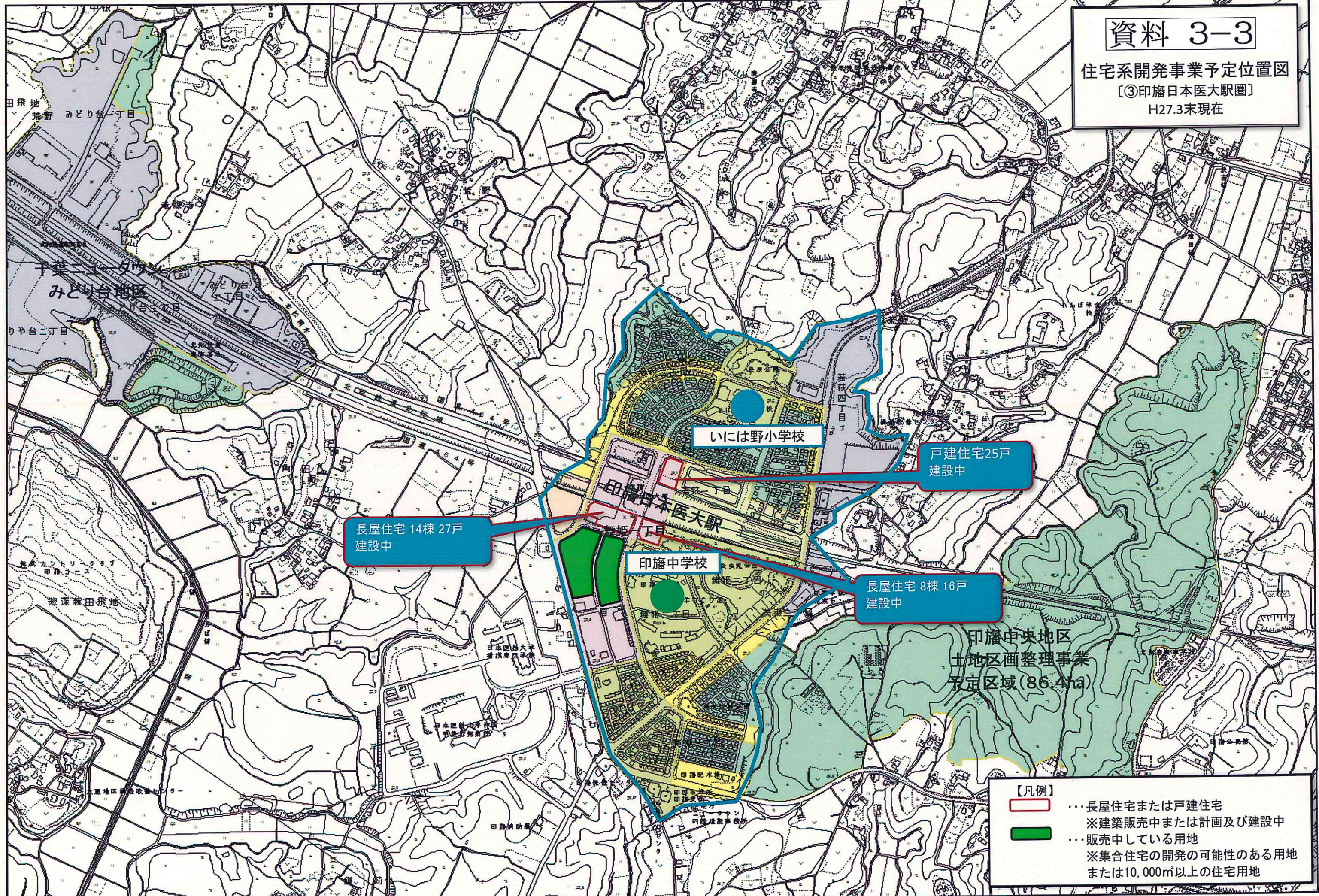


【凡例】

- 共同住宅または戸建住宅
※建築販売中または計画及び建設中
- 販売している用地
※集合住宅の開発の可能性のある用地
または10,000㎡以上の住宅用地

資料 3-3

住宅系開発事業予定位置図
〔③印旛日本医大駅圏〕
H27.3末現在



長屋住宅 14棟 27戸
建設中

戸建住宅 25戸
建設中

長屋住宅 8棟 16戸
建設中

印旛中央地区
土地区画整理事業
予定区域 (86.4ha)

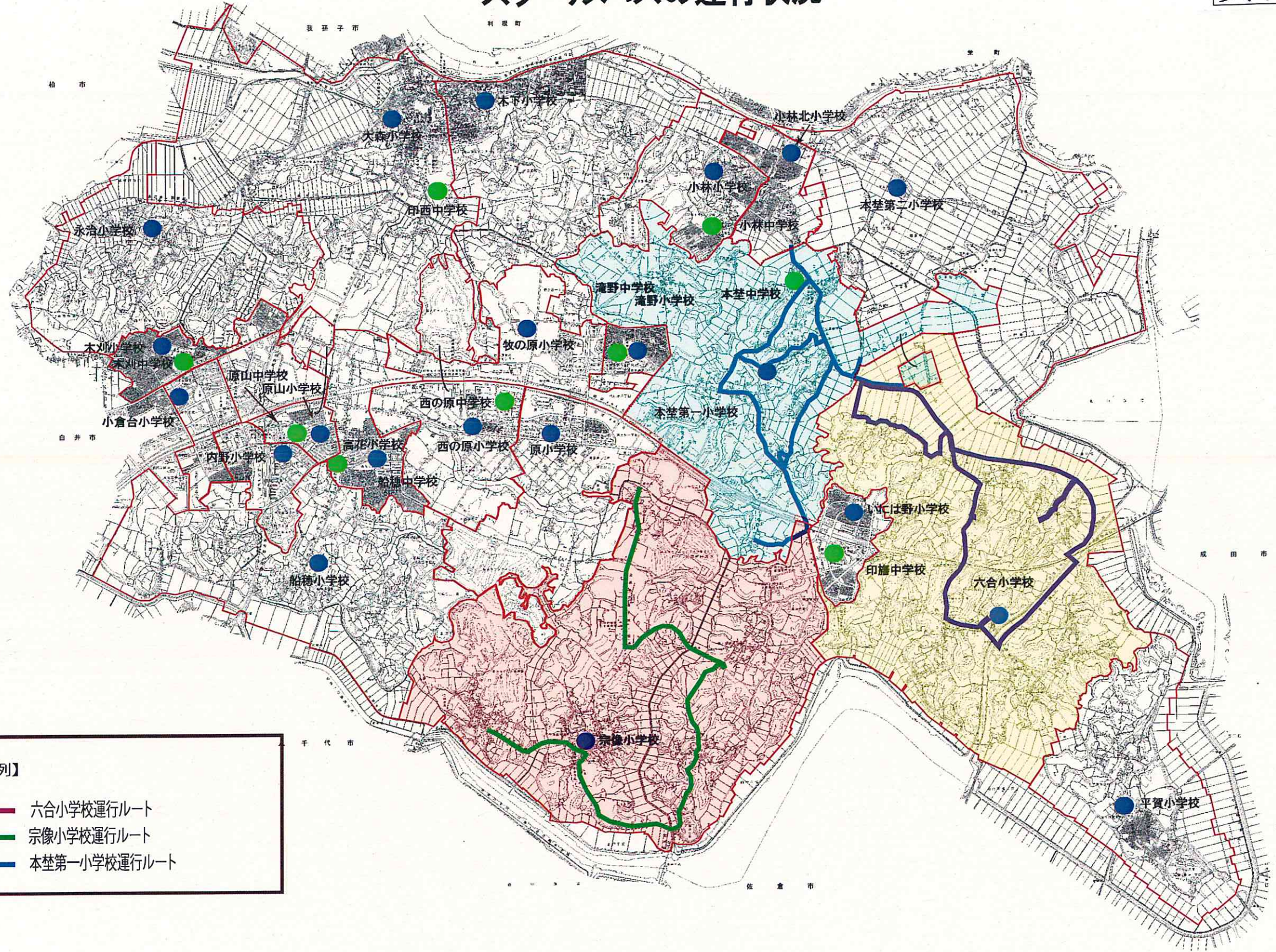
- 【凡例】
- 長屋住宅または戸建住宅
※建築販売中または計画及び建設中
 - 販売中している用地
※集合住宅の開発の可能性のある用地
または10,000㎡以上の住宅用地

スクールバスの運行状況




記号
 437.2
 425.62
 423.3
 421.6
 419.9
 418.2
 416.5
 414.8
 413.1
 411.4
 409.7
 408.0
 406.3
 404.6
 402.9
 401.2
 399.5
 397.8
 396.1
 394.4
 392.7
 391.0
 389.3
 387.6
 385.9
 384.2
 382.5
 380.8
 379.1
 377.4
 375.7
 374.0
 372.3
 370.6
 368.9
 367.2
 365.5
 363.8
 362.1
 360.4
 358.7
 357.0
 355.3
 353.6
 351.9
 350.2
 348.5
 346.8
 345.1
 343.4
 341.7
 340.0
 338.3
 336.6
 334.9
 333.2
 331.5
 329.8
 328.1
 326.4
 324.7
 323.0
 321.3
 319.6
 317.9
 316.2
 314.5
 312.8
 311.1
 309.4
 307.7
 306.0
 304.3
 302.6
 300.9
 299.2
 297.5
 295.8
 294.1
 292.4
 290.7
 289.0
 287.3
 285.6
 283.9
 282.2
 280.5
 278.8
 277.1
 275.4
 273.7
 272.0
 270.3
 268.6
 266.9
 265.2
 263.5
 261.8
 260.1
 258.4
 256.7
 255.0
 253.3
 251.6
 249.9
 248.2
 246.5
 244.8
 243.1
 241.4
 239.7
 238.0
 236.3
 234.6
 232.9
 231.2
 229.5
 227.8
 226.1
 224.4
 222.7
 221.0
 219.3
 217.6
 215.9
 214.2
 212.5
 210.8
 209.1
 207.4
 205.7
 204.0
 202.3
 200.6
 198.9
 197.2
 195.5
 193.8
 192.1
 190.4
 188.7
 187.0
 185.3
 183.6
 181.9
 180.2
 178.5
 176.8
 175.1
 173.4
 171.7
 170.0
 168.3
 166.6
 164.9
 163.2
 161.5
 159.8
 158.1
 156.4
 154.7
 153.0
 151.3
 149.6
 147.9
 146.2
 144.5
 142.8
 141.1
 139.4
 137.7
 136.0
 134.3
 132.6
 130.9
 129.2
 127.5
 125.8
 124.1
 122.4
 120.7
 119.0
 117.3
 115.6
 113.9
 112.2
 110.5
 108.8
 107.1
 105.4
 103.7
 102.0
 100.3
 98.6
 96.9
 95.2
 93.5
 91.8
 90.1
 88.4
 86.7
 85.0
 83.3
 81.6
 79.9
 78.2
 76.5
 74.8
 73.1
 71.4
 69.7
 68.0
 66.3
 64.6
 62.9
 61.2
 59.5
 57.8
 56.1
 54.4
 52.7
 51.0
 49.3
 47.6
 45.9
 44.2
 42.5
 40.8
 39.1
 37.4
 35.7
 34.0
 32.3
 30.6
 28.9
 27.2
 25.5
 23.8
 22.1
 20.4
 18.7
 17.0
 15.3
 13.6
 11.9
 10.2
 8.5
 6.8
 5.1
 3.4
 1.7
 0.0

【凡例】

- 六合小学校運行ルート
- 宗像小学校運行ルート
- 本笠第一小学校運行ルート



学校適正配置のシミュレーション(案)の学校別資料リスト

凡 例	
	H33時点の小規模校
	H33時点の準適正規模校
	H33時点の適正規模校
適正配置前 (H27児童数/学級数→H33児童数/学級数)	
適正配置後 (H33児童数/学級数)	

A「永治小学校」関係資料

資料番号	学校適正配置の組合せ		
資料6-3-A①	永治小 (31/5→34/5①)	+ 木刈小 (483/16→444/15)	⇒ 新 木刈小 (478/15)
資料6-3-A②	永治小 (31/5→34/5①)	+ 大森小 (217/7→178/6)	⇒ 新 大森小 (212/8)

B「宗像小学校」関係資料

資料番号	学校適正配置の組合せ		
資料6-3-B①	宗像小 (36/5→44/6)	+ いには野小 (497/18→389/13)	⇒ 新 いには野小 (433/15)
資料6-3-B②	宗像小 (36/5→44/6)	+ 六合小 (88/6→99/6)	⇒ 新 六合小 (143/6)

C「本埜第一小学校・本埜第二小学校」関係資料

資料番号	学校適正配置の組合せ			
資料6-3-C①	本埜第一小 (45/5①→78/6)	+ 滝野小 (405/14→222/8)	⇒ 新 滝野小 (300/12)	
資料6-3-C②	本埜第一小 (45/5①→78/6)	+ 滝野小 (405/14→222/8)	+ 本埜第二小 (67/6→36/5①)	⇒ 新 滝野小 (336/12)
資料6-3-C③	本埜第一小 (45/5①→78/6)	+ いには野小 (497/18→389/13)	⇒ 新 いには野小 (467/15)	
資料6-3-C④	本埜第二小 (67/6→36/5①)	+ 小林北小 (172/6→138/6)	⇒ 新 小林北小 (174/6)	
資料6-3-C⑤	本埜第一小 (45/5①→78/6)	+ 本埜第二小 (67/6→36/5①)	+ 本埜中 (59/3→47/3)	⇒ 新 義務教育学校 (161/9)

D「船穂小学校」関係資料

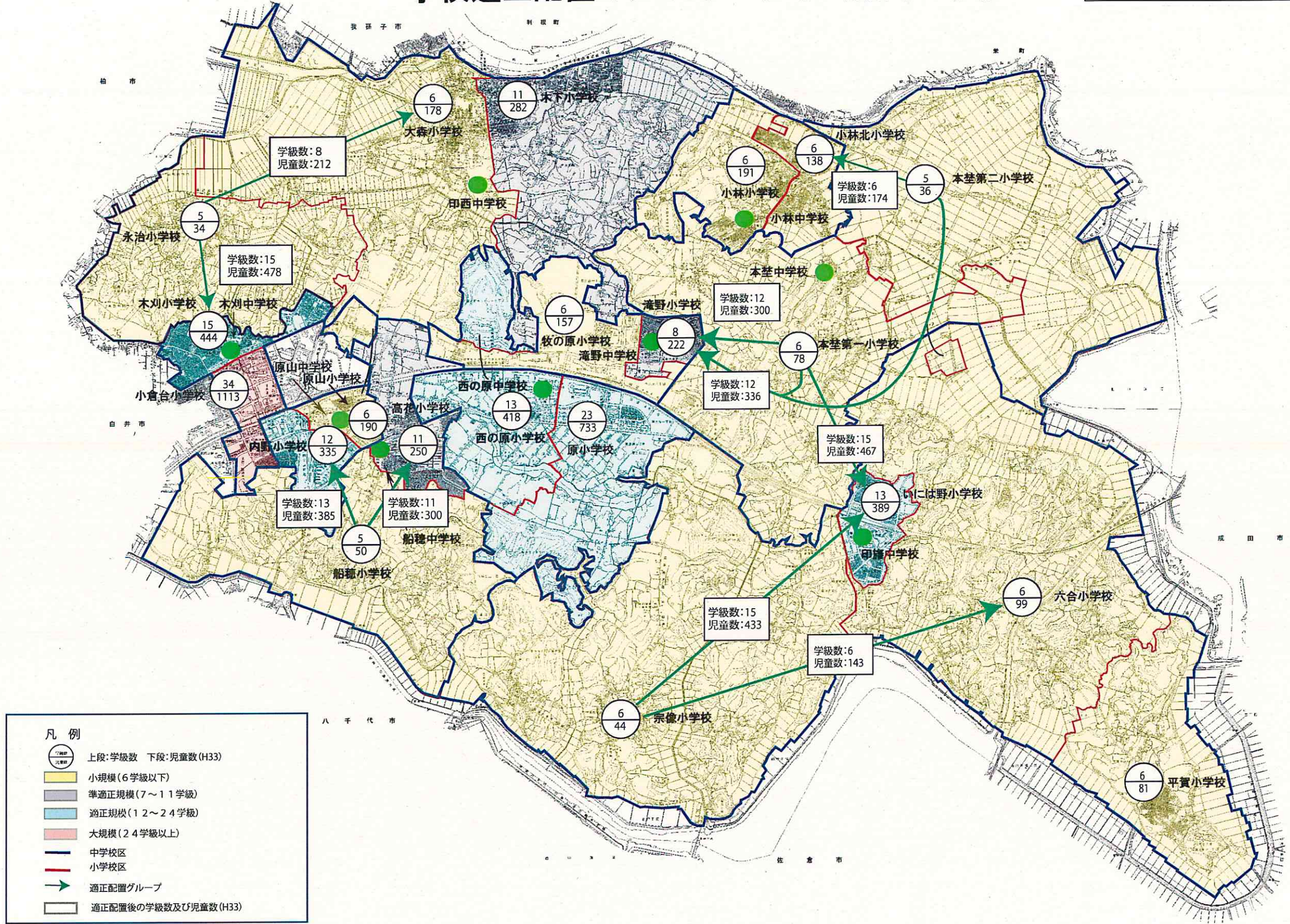
資料番号	学校適正配置の組合せ		
資料6-3-D①	船穂小 (51/5①→50/5①)	+ 高花小 (308/11→250/11)	⇒ 新 高花小 (300/11)
資料6-3-D②	船穂小 (51/5①→50/5①)	+ 内野小 (344/12→335/12)	⇒ 新 内野小 (385/13)

※シミュレーション(案)で示した学校は、第4回審議会の資料2「(4)学校適正配置の優先度」に記載のある「分類① 複式学級・欠学年を有する小学校」の5校とする。

※上記の学級数及び児童生徒数は通常学級のみで、特別支援学級の児童生徒数及び学級数は含んでおりません。【資料3(図)及び資料6-1-①~6-4-②も同じ。】

学校適正配置のシミュレーション(案)【小学校】

資料 6-2(図)

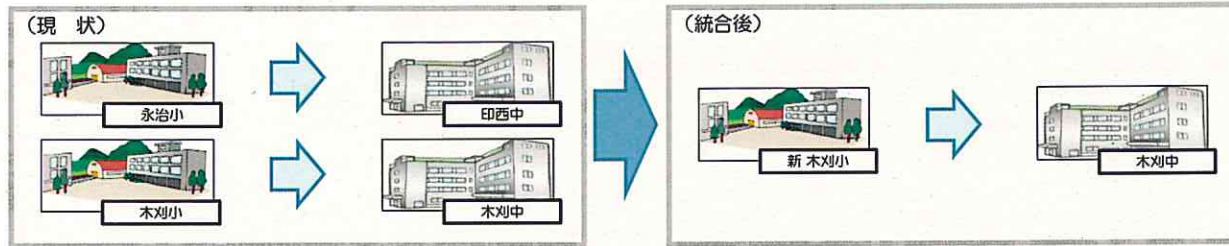


凡例

- 上段:学級数 下段:児童数(H33)
- 小規模(6学級以下)
- 準適正規模(7~11学級)
- 適正規模(12~24学級)
- 大規模(24学級以上)
- 中学校区
- 小学校区
- 適正配置グループ
- 適正配置後の学級数及び児童数(H33)

※学級数及び児童数は、第1回審議会資料4-3の学級数(H33)によるもの。

学校適正配置のシミュレーション(案)【永治小+木刈小】



項目	永治小学校	木刈小学校	新木刈小学校
① 所在	印西市浦部5-7	印西市木刈2-6	印西市木刈2-6
② 開校年	明治6年	昭和59年	昭和59年
③ 教室保有数等	総数 6教室 (H27: 特支 0教室)	総数 26教室 (H27: 特支 2教室)	総数 26教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 31名 → H33: 34名 3名の増	H27: 483名 → H33: 444名 39名の減	H27: 514名 → H33: 478名 36名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 5学級 (複式1) 増減なし	H27: 16学級 → H33: 15学級 1学級の減	H27: 16学級 → H33: 15学級 1学級の減
⑥ 通学区	東西: 約3.9km・南北: 約2.8km 通距離地域: 直線 約1.8km・道路 約2.5km	東西: 約2.4km・南北: 約1.4km 通距離地域: 直線 約1.7km・道路 約1.9km	東西: 約3.9km・南北: 約3.4km 通距離地域: 直線 約2.1km・道路 約2.7km
⑦ 教育目標	心豊かで、自ら学力や体力を高める 子どもの育成	心豊かに、自ら学ぶ、 たくましく生きる子どもの育成	心豊かに、自ら学ぶ、 たくましく生きる子どもの育成
⑧ 学区外就学の 状況(出)	H27: 対象者20人/学区の児童数51人 割合: 39.2% 主な就学先 木刈小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は東に手賀沼を展望する高台に位置し、周囲は住宅、林、畑に囲まれている。 校庭には、大桜と呼ばれる桜の大木がシンボルツリーとしてある。 人間関係作りを通して心を育て、リーダー的資質を養っている。また、小規模校のよさを生かし、一人ひとりの特性や資質に応じたきめ細やかな教育活動を推進している。 本校の特色でもある地域に根ざした教育の一環として、神楽推進委員会を立ち上げ、6年生は地域の伝統芸能「浦部十二座神楽」を学び、継続的な活動に取り組んでいる。 3世代、4世代が同居し、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちを育てる環境にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸建中心の住宅と浦部川や浦部公園などの豊かな自然環境に囲まれた落ち着いた地域環境にある学校である。 木刈っこの合言葉「みそあじ」を意図し、特に掃除と挨拶ができることを重点として、きれいな校舎の中に明るい挨拶が響いている。 なわ跳び記録会やロードレース大会、遊・友スポーツランキングや集会活動等を通して、運動や遊びに積極的に親しむ姿も見られる。 P.T.A活動も活発で作文・標語・広報紙の部でも多くの賞をいただいている。 読み聞かせ、図書ボランティア、防犯、高齢者交流など、様々な活動を地域と一体となって進めている。 	

<児童数・学級数の推移>

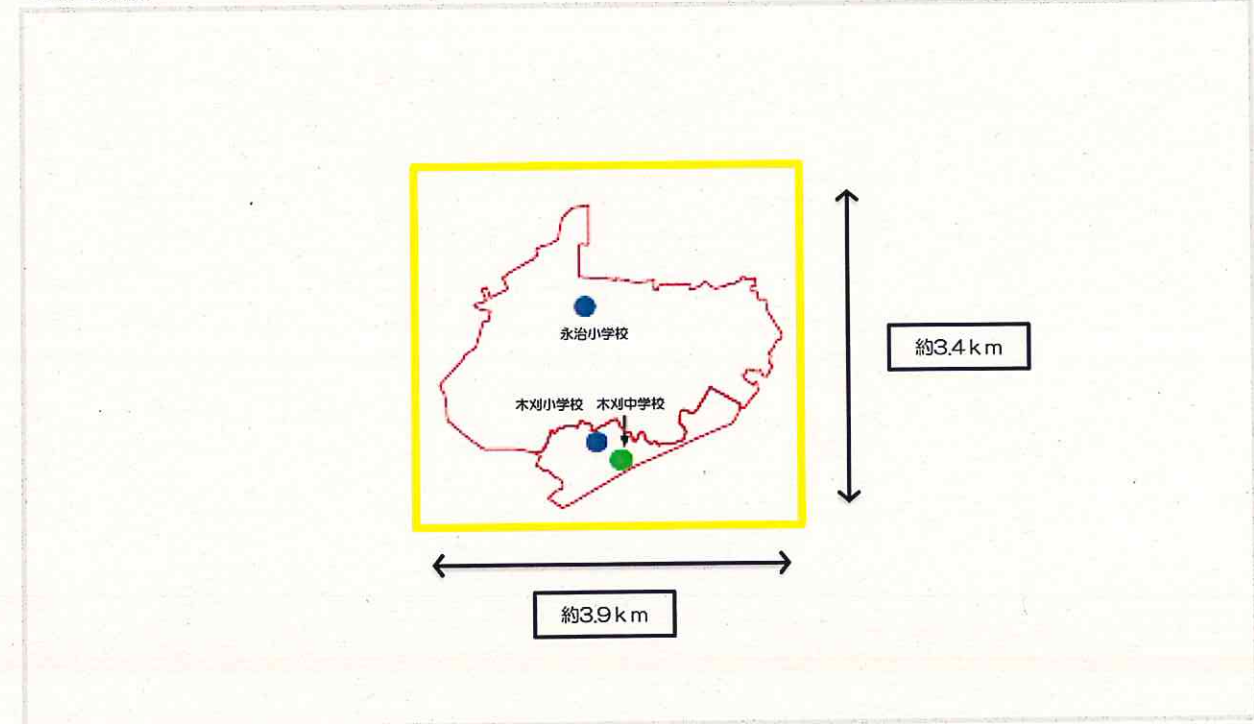
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
永治小学校	31	5	30	5	25	4	25	4	25	4	32	5	34	5
木刈小学校	483	16	516	17	517	17	540	18	528	17	488	16	444	15
新木刈小学校	514	16	546	17	542	17	565	18	553	18	520	17	478	15

<学校適正配置シミュレーション(案)の考察>

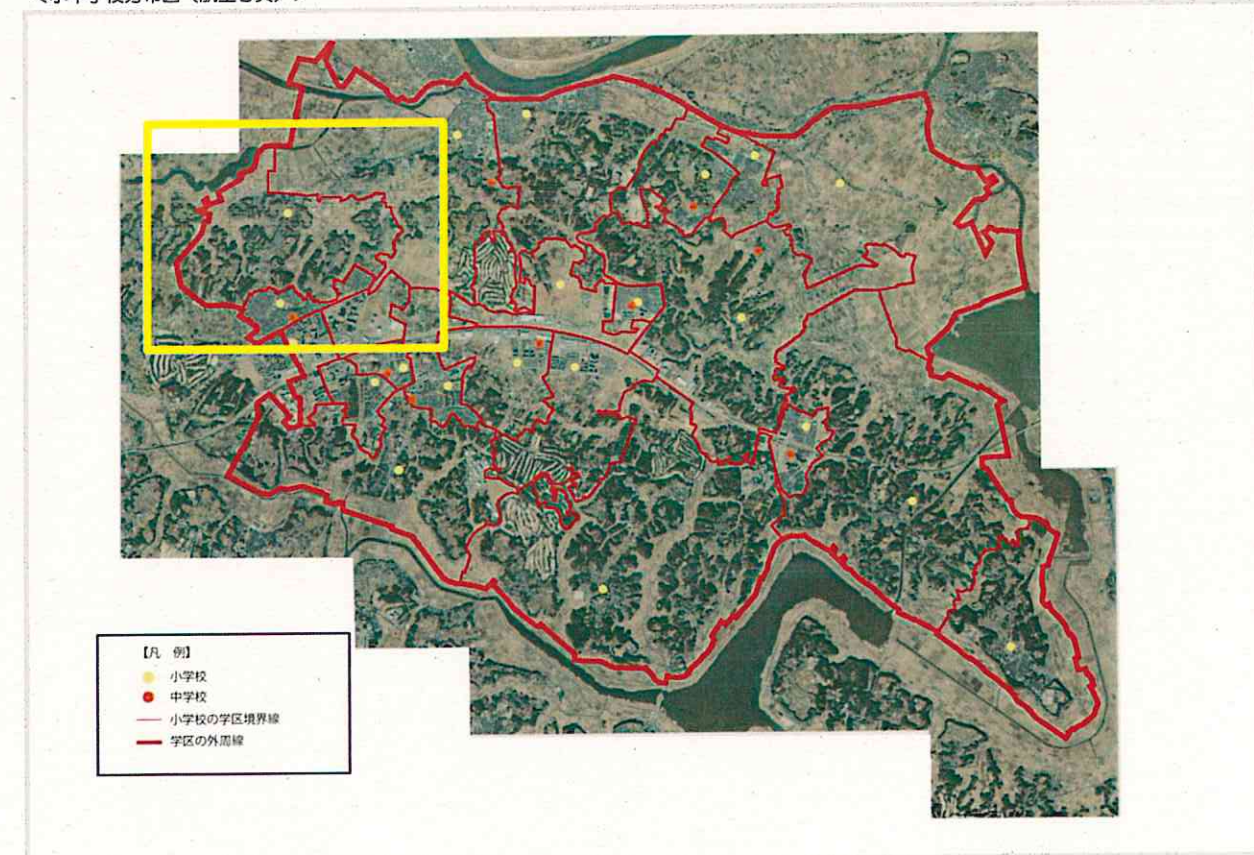
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
永治小+木刈小⇒新木刈小	適正	○	○	木刈小は永治小学校学区からの主な学区外就学先となっている。永治小の中学校区が印西中から木刈中に変更となる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 通距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

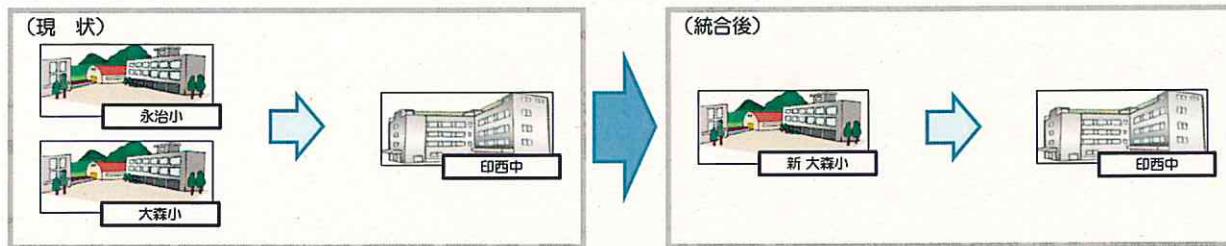
<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション（案）【永治小+大森小】



項目	永治小学校	大森小学校	新大森小学校
① 所在	印西市浦部557	印西市大森3350	印西市大森3350
② 開校年	明治6年	明治26年	明治26年
③ 教室保有数等	総数 6教室 (H27: 特支 0教室)	総数 16教室 (H27: 特支 2教室)	総数 16教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 31名 → H33: 34名 3名の増	H27: 217名 → H33: 178名 39名の減	H27: 248名 → H33: 212名 36名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 5学級 (複式1) 増減なし	H27: 7学級 → H33: 6学級 1学級の減	H27: 9学級 → H33: 8学級 1学級の減
⑥ 通学区	東西: 約3.9km・南北: 約2.8km 遠距離地域: 直線 約1.8km・道路 約2.5km	東西: 約4.4km・南北: 約4.7km 遠距離地域: 直線 約2.9km・道路 約3.1km	東西: 約5.5km・南北: 約4.7km 遠距離地域: 直線 約4.2km・道路 約4.6km
⑦ 教育目標	心豊かで、自ら学力や体力を高める 子どもの育成	豊かな心をもち 自ら学び たくましく生きる子どもの育成	豊かな心をもち 自ら学び たくましく生きる子どもの育成
⑧ 学区外就学の状況 (出)	H27: 対象者20人/学区の児童数51人 割合: 39.2% 主な就学先 木刈小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は東に手賀沼を展望する高台に位置し、周囲は住宅、林、畑に囲まれている。 校庭には、大桜と呼ばれている桜の大木がシンボルツリーとしてある。 人間関係作りを通して心を育て、リーダー的資質を養っている。また、小規模校のよさを生かし、一人ひとりの特性や資質に応じたきめ細やかな教育活動を推進している。 本校の特色でもある地域に根ざした教育の一環として、神楽推進委員会を立ち上げ、6年生は地域の伝統芸能「浦部十二座神楽」を学び、継続的な活動に取り組んでいる。 3世代、4世代が同居し、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちを育てる環境にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の区域は江戸時代の水運の要所として発展し、各地区に史跡等が多く散在している。 木下駅を中心に各業種の店舗等商業施設がある一方で、周辺には水田が広がる農業地域となっている。 手賀沼に通じる亀成川には白鳥が住みつき、その優美さは地域の人々に安らぎを与えている。 六軒地区に見られるお祭りや相撲大会は地域のコミュニケーションを育む重要な行事として位置付けられている。 本校の卒業生である第24代横綱「鳳」は、この六軒の出身であり、地域の誇りとして今も崇拜されている。 	

<児童数・学級数の推移>

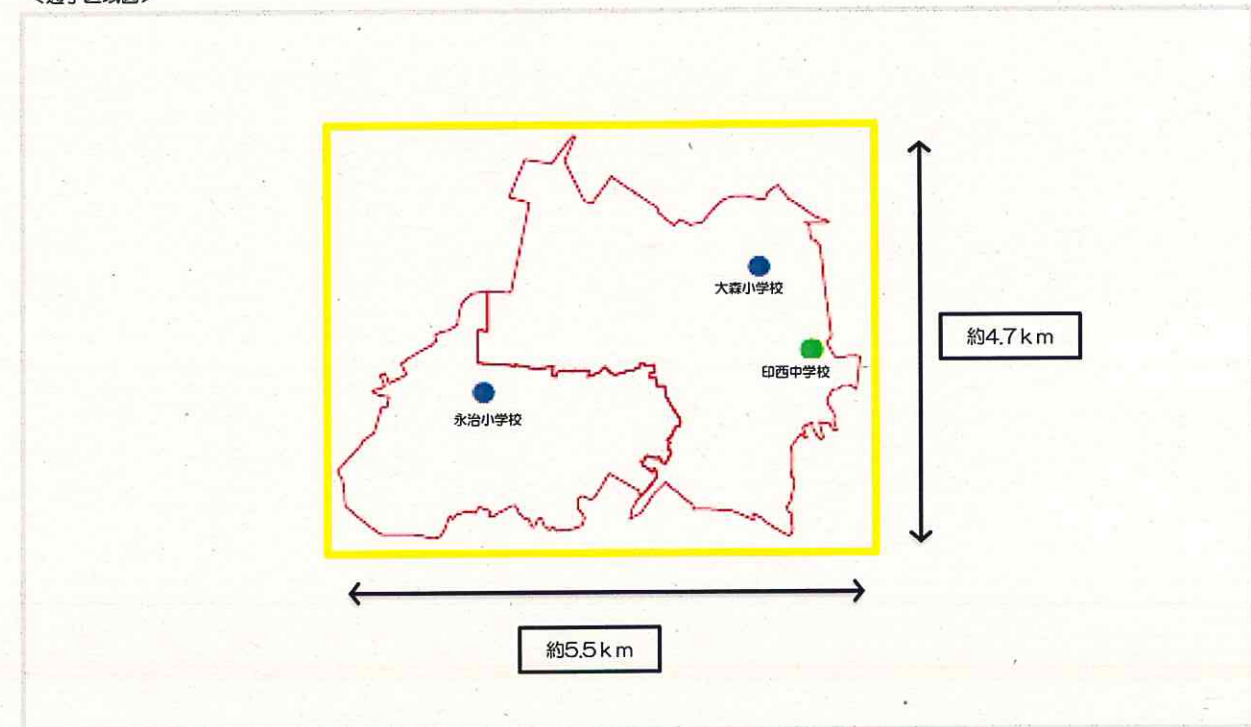
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
永治小学校	31	5	30	5	25	4	25	4	25	4	32	5	34	5
大森小学校	217	7	216	7	199	6	190	6	185	6	183	6	178	6
新大森小学校	248	9	246	8	224	8	215	8	210	7	215	8	212	8

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

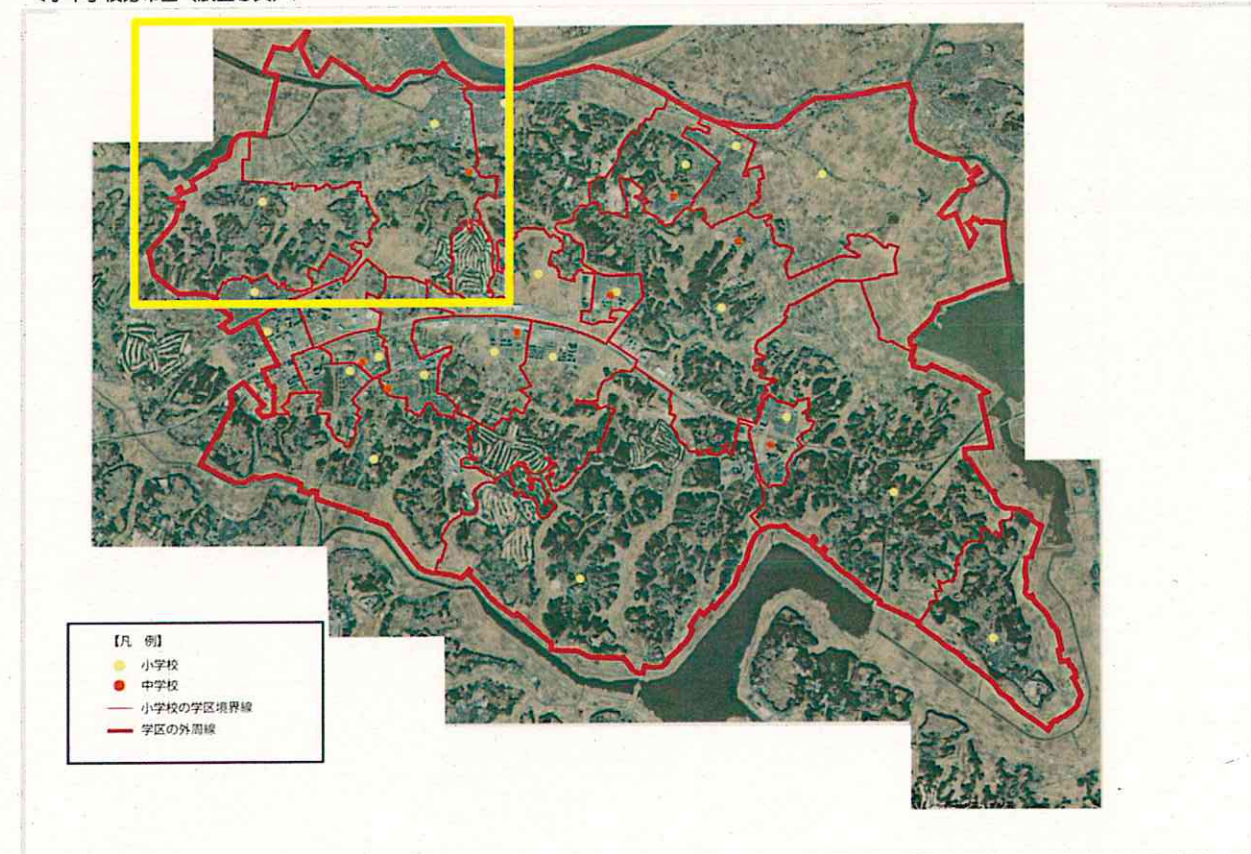
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学 (道路)	特記事項
永治小+大森小⇒新大森小	準適正	○	△	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・一部借地がある。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学 (道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

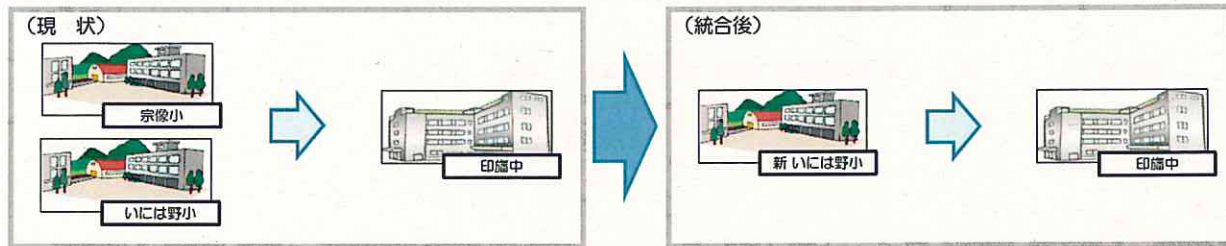
<通学区域図>



<小中学校分布図 (航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション（案）【宗像小+いには野小】



項目	宗像小学校	いには野小学校	新しいには野小学校
① 所在	印西市若戸1680	印西市若萩3-9	印西市若萩3-9
② 開校年	明治6年	平成12年	平成12年
③ 教室保有数等	総数 8教室 (H27: 特支 1教室)	総数 22教室 (H27: 特支 4教室)	総数 22教室 (H27: 特支 4教室)
④ 児童数の推移	H27: 36名 → H33: 44名 8名の増	H27: 497名 → H33: 389名 108名の減	H27: 533名 → H33: 433名 100名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 18学級 → H33: 13学級 5学級の減	H27: 18学級 → H33: 15学級 3学級の減
⑥ 通学区域	東西: 約5.6km・南北: 約5.3km 遠距離地域: 直線 約3.8km・道路 約4.0km	東西: 約1.1km・南北: 約1.7km 遠距離地域: 直線 約1.1km・道路 約1.4km	東西: 約6.4km・南北: 約5.3km 遠距離地域: 直線 約5.6km・道路 約7.3km
⑦ 教育目標	たくましく 心豊かな 児童の育成	たくましく 豊かな心をもち 最後まで学び通す子どもの育成	たくましく 豊かな心をもち 最後まで学び通す子どもの育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者6人/学区の児童数44人 割合: 13.6% 主な就学先 いには野小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の南部に位置し、西は八千代市、南は佐倉市に隣接している。 学区は東西約6km、南北約6kmの範囲にあり、沼に面した南方と八千代市に面した西方は湿地帯で水田が開けている。また、中央より北方にかけては丘陵をなしており、山林や畑が散在し、一帯の地質は関東ローム層である。 農業地域であり、子ども・両親・祖父母による三世帯同居家庭が多い。 両親共働きの子が多く、就学前の子どもは、幼稚園や保育園に通うか、祖父母に面倒を見てもらっている。 地域の方々からは自らも本校卒業という保護者が多く、愛校心が強く、学校教育に対する理解と協力を惜しまない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に新設された。 学校の周辺は、緑豊かな自然環境に恵まれている。また、学校・駅・公園・歩道等のバリアフリー化が図られており、街全体が高齢者や身体障害者にやさしいつくりとなっている。 校舎は、地域社会とのつながりを考えたつくりとなっています。 学区は、美瀬・舞姫・若萩の3地区からなり、児童数は、若萩地区が増加している。 保護者の教育に対する関心は非常に高く、教育活動へのボランティア活動にも積極的に参加していただいている。 	

<児童数・学級数の推移>

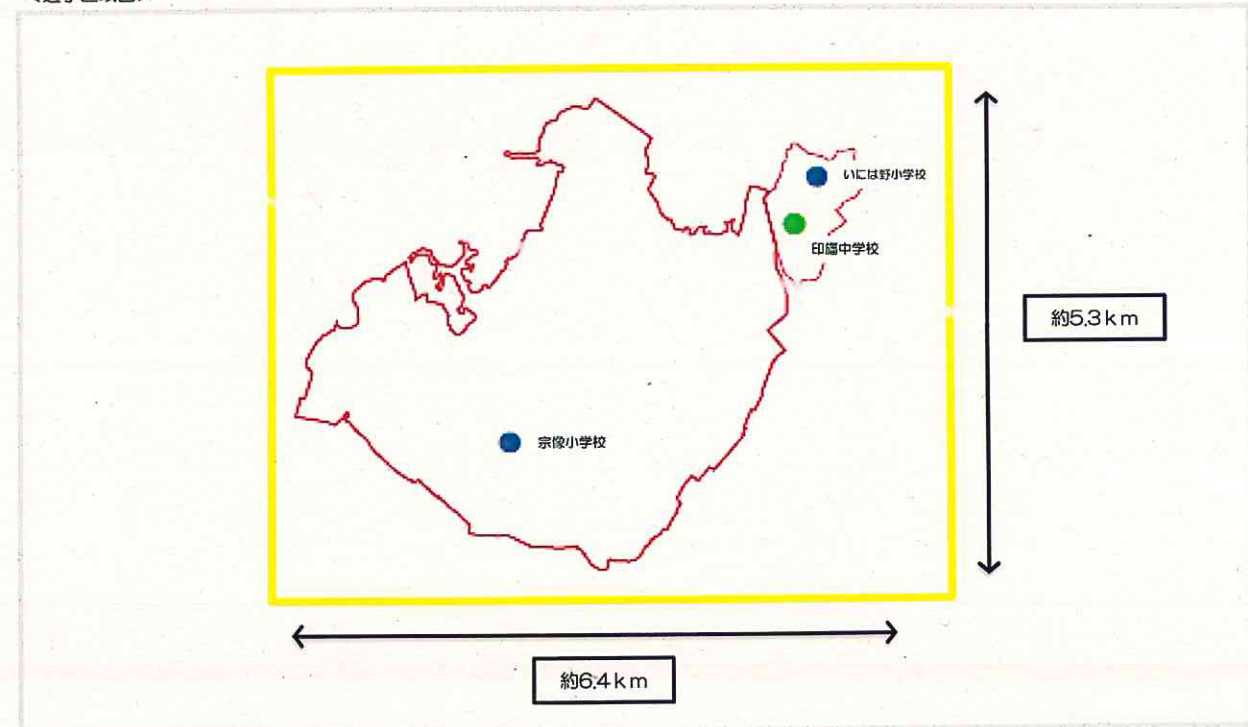
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
宗像小学校	36	5	27	4	28	4	34	5	40	5	43	5	44	6
いには野小学校	497	18	492	17	480	16	463	15	440	14	414	14	389	13
新しいには野小学校	533	18	519	18	508	18	497	18	480	18	457	17	433	15

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

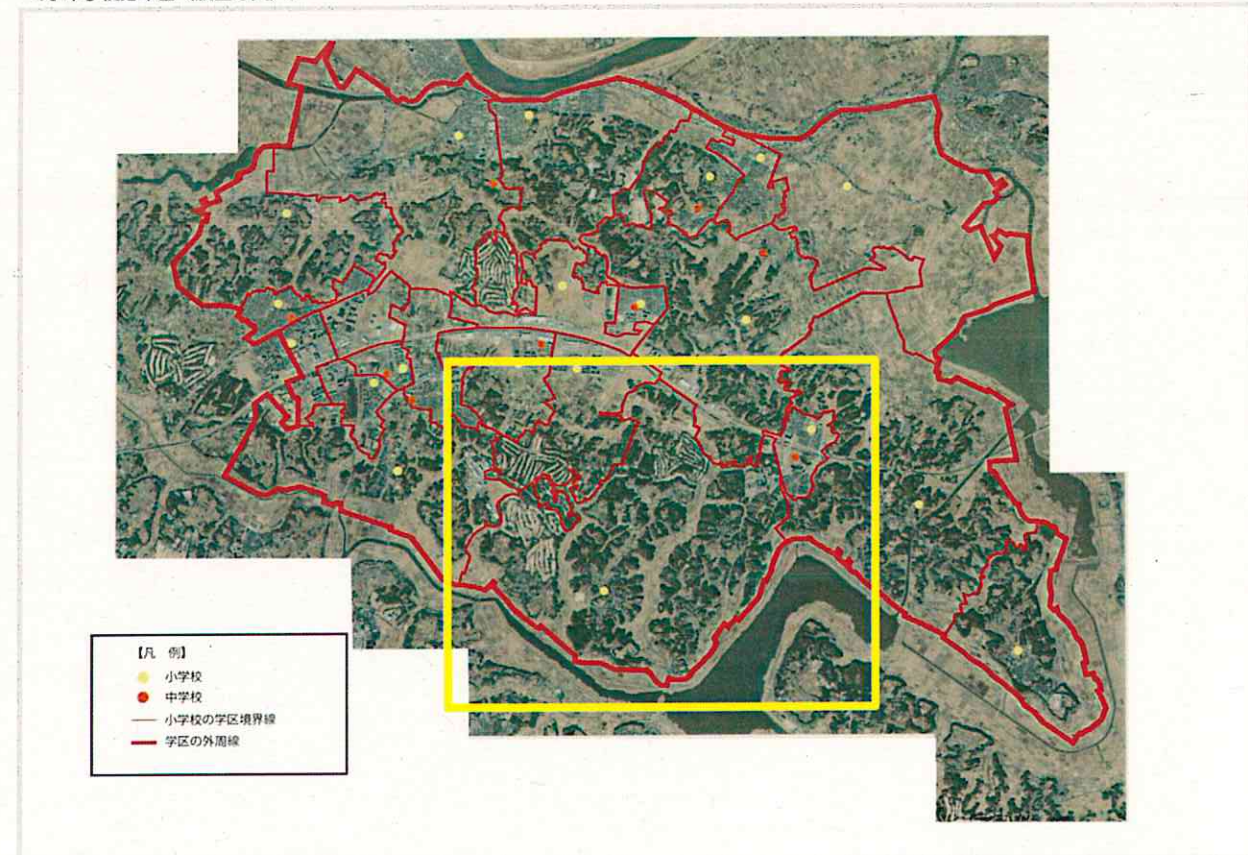
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学(道路)	特記事項
宗像小+いには野小⇒新しいには野小	適正	○	△	いには野小は宗像小学校学区からの主な学区外就学先となっている。 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション（案）【宗像小+六合小】



項目	宗像小学校	六合小学校	新 六合小学校
① 所在	印西市岩戸1680	印西市瀬戸1580	印西市瀬戸1580
② 開校年	明治6年	明治6年	明治6年
③ 教室保有数等	総数 8教室 (H27: 特支 1教室)	総数 14教室 (H27: 特支 2教室)	総数 14教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 36名 → H33: 44名 8名の増	H27: 88名 → H33: 99名 11名の増	H27: 124名 → H33: 143名 19名の増
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 6学級 → H33: 6学級 増減なし	H27: 6学級 → H33: 6学級 増減なし
⑥ 通学区域	東西: 約5.6km・南北: 約5.3km 通距離地域: 直線 約3.8km・道路 約4.0km	東西: 約4.5km・南北: 約5.8km 通距離地域: 直線 約3.2km・道路 約4.6km	東西: 約9.3km・南北: 約6.8km 通距離地域: 直線 約6.9km・道路 約8.7km
⑦ 教育目標	たくましく 心豊かな 児童の育成	やさしく かしこく たくましい 子どもの育成	やさしく かしこく たくましい 子どもの育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者6人/学区の児童数44人 割合: 13.6% 主な就学先 いには野小学校	H27: 対象者19人/学区の児童数108人 割合: 17.6% 主な就学先 いには野小学校	
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の南部に位置し、西は八千代市、南は佐倉市に隣接している。 学区は東西約6km、南北約6kmの範囲にあり、沼に面した南方と八千代市に面した西方は湿地帯で水田が開けている。また、中央より北方にかけては丘陵をなしており、山林や畑が散在し、一帯の地質は関東ローム層である。 農業地域であり、子ども・両親・祖父母による三世帯同居家庭が多い。両親共働きの保護者が多く、就学前の子どもは、幼稚園や保育園に通うか、祖父母に面倒を見てもらっている。 地域の方々からは自らも本校卒業という保護者が多く、愛校心が強く、学校教育に対する理解と協力を惜しまない。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は印西市の南東部に位置し、学区は瀬戸・山田・吉高・萩原・松虫の5地区からなる。 学区には農家が多く、稲作、ビニールハウスによる園芸作物・野菜栽培を行っている。 児童の家庭は、ほとんどが三世帯、四世代同居で、学校教育に対する理解が深く協力要請には、快く応じてくれる。 萩原・松虫・吉高地区は、通学距離が4kmを超えるため、市スクールバスを利用して通学している。 	

<児童数・学級数の推移>

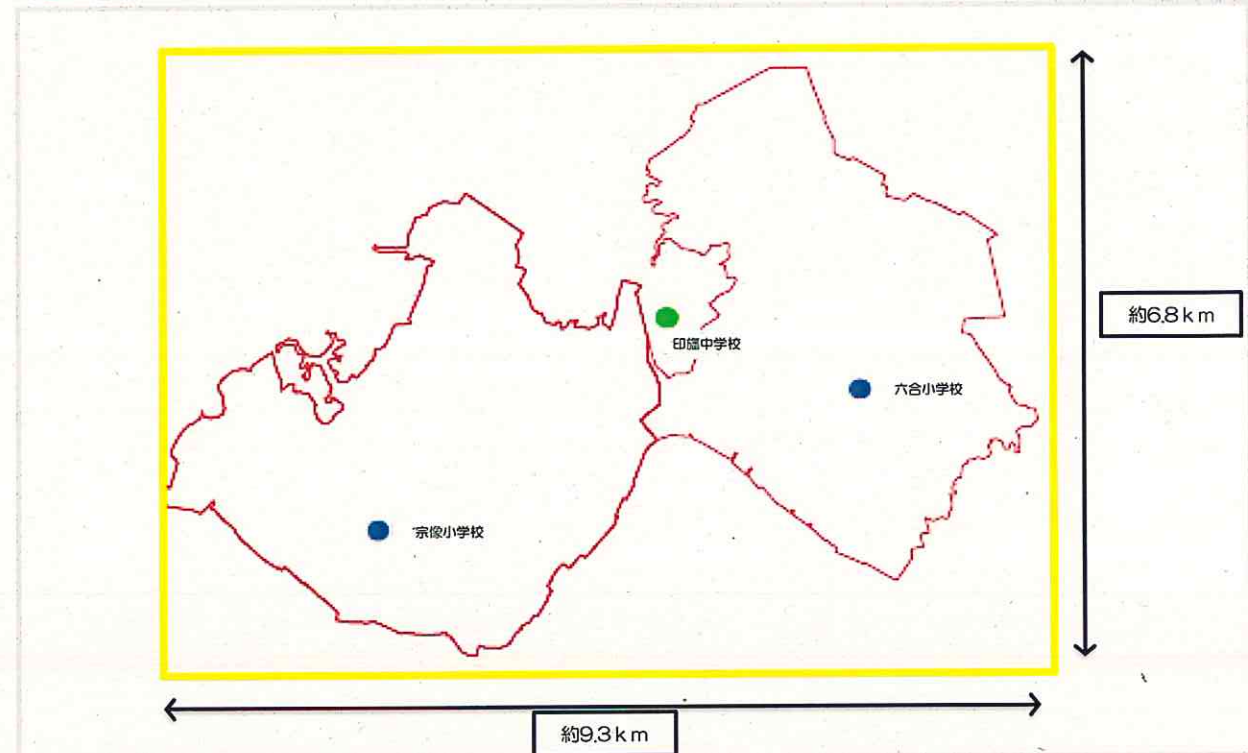
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
宗像小学校	36	5	27	4	28	4	34	5	40	5	43	5	44	6
六合小学校	88	6	87	6	95	6	97	6	96	6	98	6	99	6
新 六合小学校	124	6	114	6	123	6	131	6	136	6	141	6	143	6

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

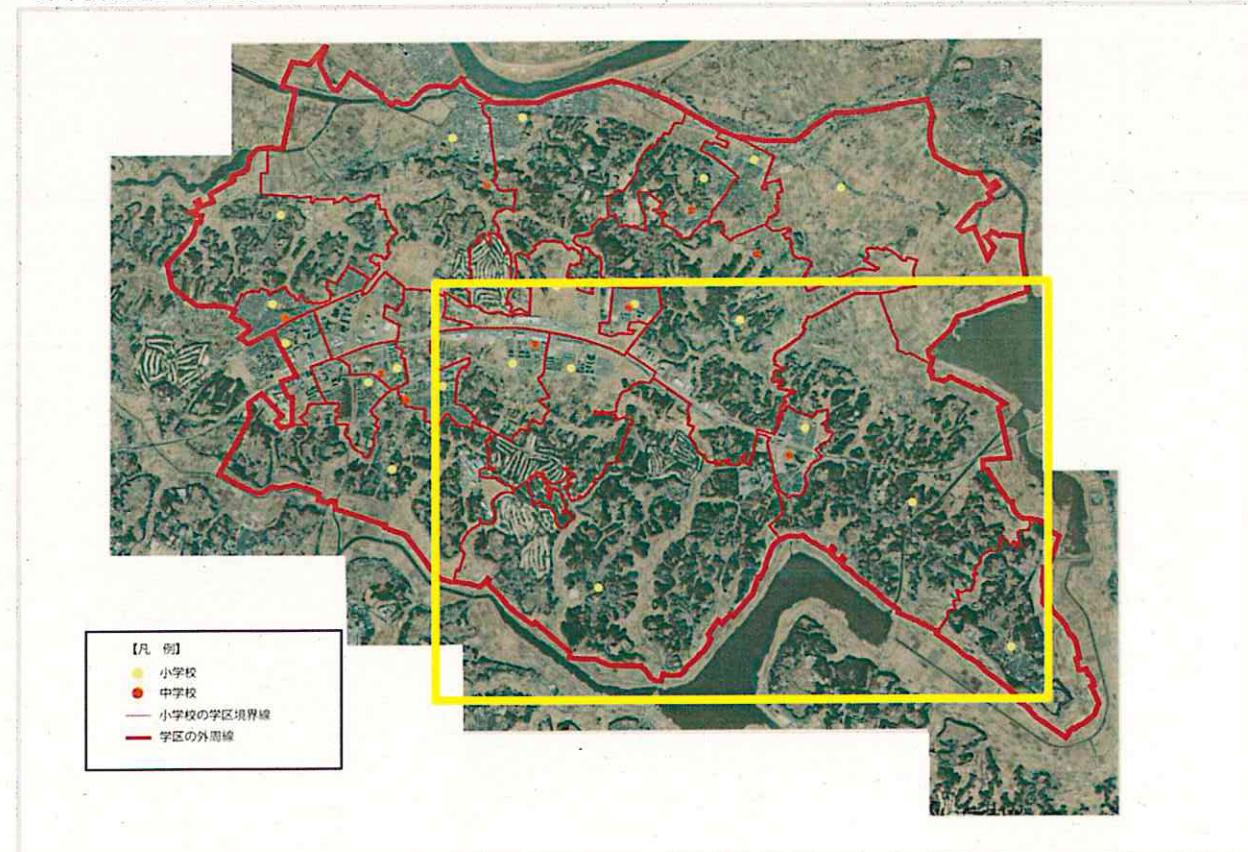
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
宗像小+六合小⇒新 六合小	小規模	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模が適正配置後も小規模校となる。 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 一部借地がある。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 通距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

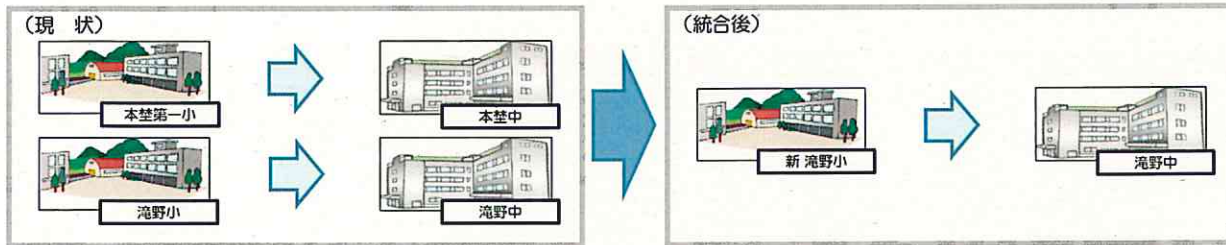
<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション(案)【本笠第一小+滝野小】



項目	本笠第一小学校	滝野小学校	新滝野小学校
① 所在	印西市中根1281-2	印西市滝野5-1	印西市滝野5-1
② 開校年	明治21年	平成9年	平成9年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 21教室 (H27: 特支 2教室)	総数 21教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 45名 → H33: 78名 33名の増	H27: 405名 → H33: 222名 183名の減	H27: 450名 → H33: 300名 150名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 14学級 → H33: 8学級 6学級の減	H27: 15学級 → H33: 12学級 3学級の減
⑥ 通学区域	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 通距離地域: 直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西: 約1.1km・南北: 約0.9km 通距離地域: 直線 約0.6km・道路 約0.8km	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 通距離地域: 直線 約4.4km・道路 約5.6km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かにたくましく子どもの育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者18人/学区の児童数62人 割合: 29.0% 主な就学先 滝野小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と台津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 学区が広いため児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 地域、保護者の教育への関心が高く、歴史ある学校を大事にしようとする風潮が代々引き継がれている。 地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の中央部に位置し、平成9年に千葉ニュータウン23住区に新設された。 学区は滝・滝野寺地区と新しく開かれた滝野地区からなる。 滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。 生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近県から転居してきた家庭が多く、海外勤務からの帰国家庭も少なくない。 保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域である。 	

<児童数・学級数の推移>

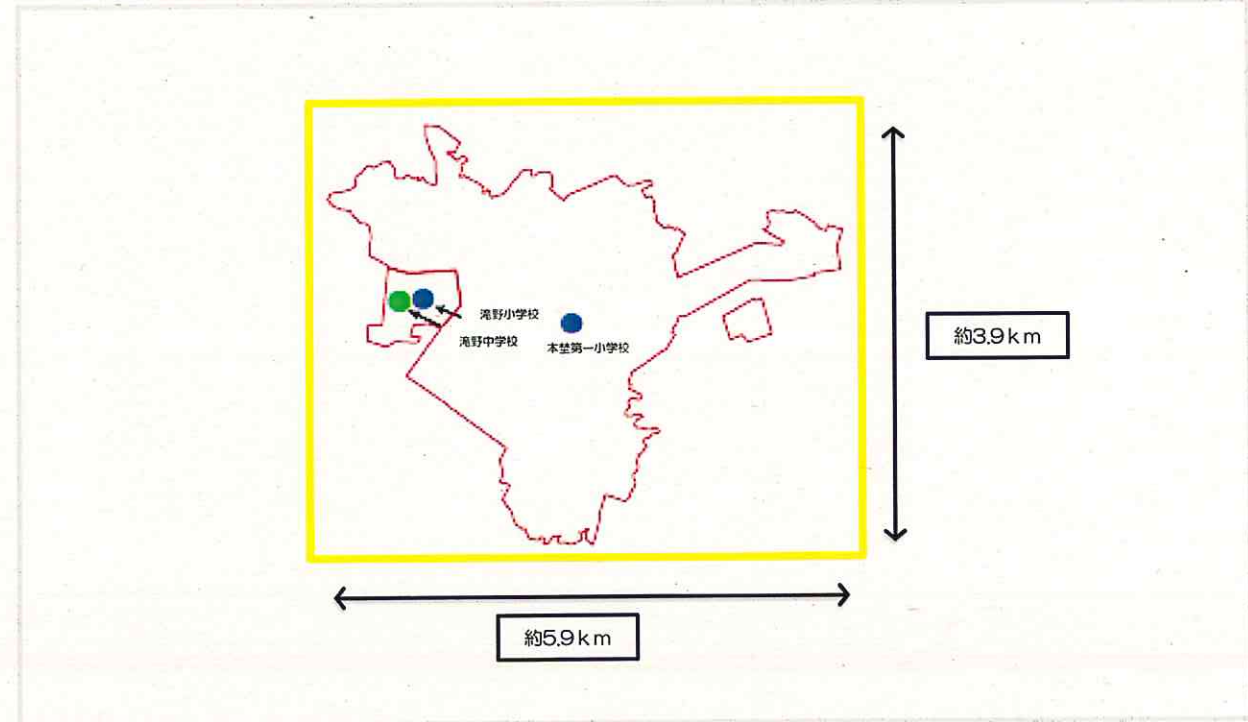
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本笠第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
滝野小学校	405	14	393	13	347	12	314	11	294	11	253	10	222	8
新滝野小学校	450	15	438	14	402	13	381	13	367	13	332	13	300	12

<学校適正配置シミュレーション(案)の考察>

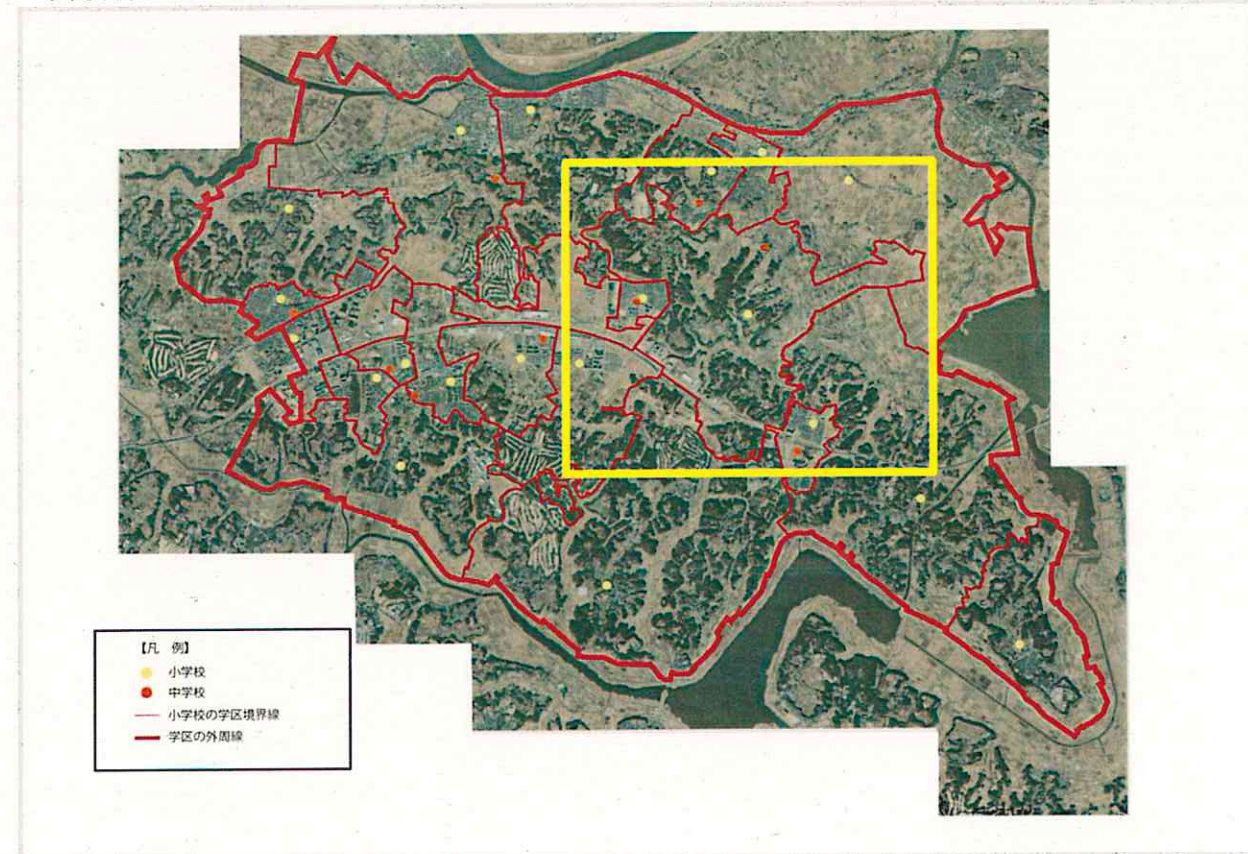
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
本笠第一小+滝野小⇒新滝野小	適正	○	△	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・本笠第一小の中学校区が本笠中から滝野中に変更となる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 通距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

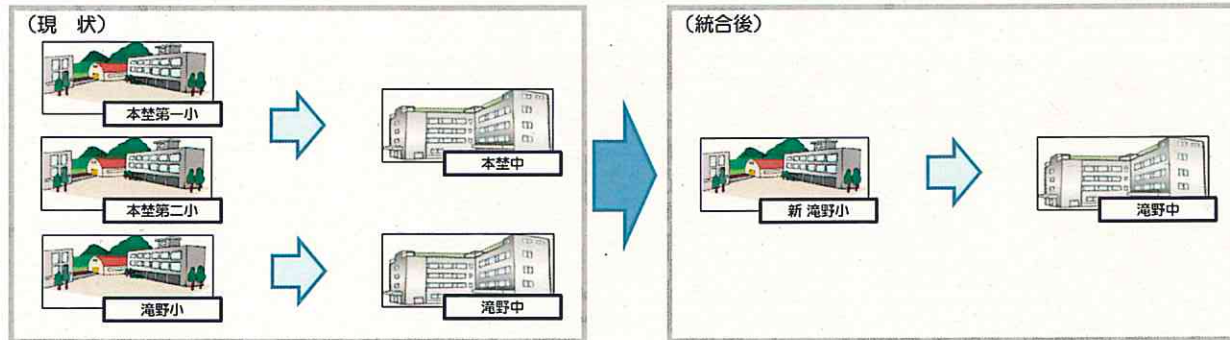
<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション（案）【本笠第一小+滝野小+本笠第二小】



項目	本笠第一小学校	滝野小学校	本笠第二小学校	新滝野小学校
① 所在地	印西市中根1281-2	印西市滝野5-1	印西市荻野1745	印西市滝野5-1
② 開校年	明治21年	平成9年	明治6年	平成9年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 21教室 (H27: 特支 2教室)	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 21教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 45名 → H33: 78名 33名の増	H27: 405名 → H33: 222名 183名の減	H27: 67名 → H33: 36名 31名の減	H27: 517名 → H33: 336名 181名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 14学級 → H33: 8学級 6学級の減	H27: 6学級 → H33: 5学級 1学級の減	H27: 16学級 → H33: 12学級 4学級の減
⑥ 通学区域	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 通距離地域: 直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西: 約1.1km・南北: 約0.9km 通距離地域: 直線 約0.6km・道路 約0.8km	東西: 約5.0km・南北: 約4.7km 通距離地域: 直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西: 約7.7km・南北: 約6.3km 通距離地域: 直線 約6.1km・道路 約7.1km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かにたくましく子どもの育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成	豊かな心を持ちたくましく生きる 児童の育成	未来をみつめ 自ら学び、 心豊かにたくましく生きる児童の育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者18人/学区の児童数62人 割合: 29.0% 主な就学先 滝野小学校		H27: 対象者5人/学区の児童数71人 割合: 7.0% 主な就学先 小林北小学校	
⑨ 学校等の特徴	・学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 ・学区が広いため児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 ・専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 ・地域、保護者の教育への関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする風気が代々引き継がれている。 ・地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 ・児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。	・本校は市の中央部に位置し、平成9年に千葉ニュータウン23住区に新設された。 ・学区は滝・滝野寺地区と新しく開かれた滝野地区からなる。 ・滝野中学校と建物が一体化しており、教室はオープンスペース、一部特別教室が共有施設になっている。 ・生活の利便性と緑豊かな環境を求めて、関東近郊から転居してきた家庭が多く、海外勤務からの帰国家庭も少なくない。 ・保護者の多くは会社員で、核家族化が進んでいる地域である。	・本校は市の北東部に位置し、周辺には印西沼の水を利用した田園風景が広がっている。 ・冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 ・学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生生物の保護活動として認められ、平成27年度に日本地産保護連盟から表彰を受けた。 ・体力・群居づくりにも取り組んでおり、平成24年度、25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元気アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。	

<児童数・学級数の推移>

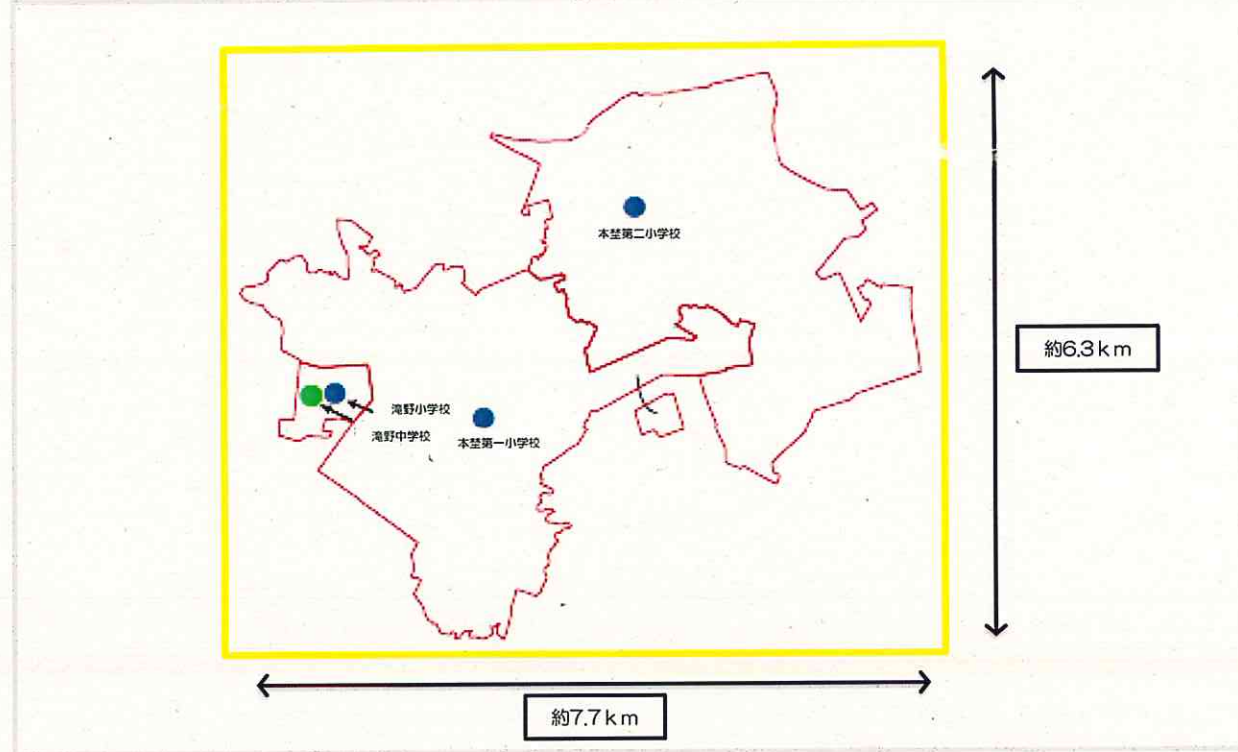
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本笠第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
滝野小学校	405	14	393	13	347	12	314	11	294	11	253	10	222	8
本笠第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
新滝野小学校	517	16	496	16	454	15	425	14	411	14	371	13	336	12

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

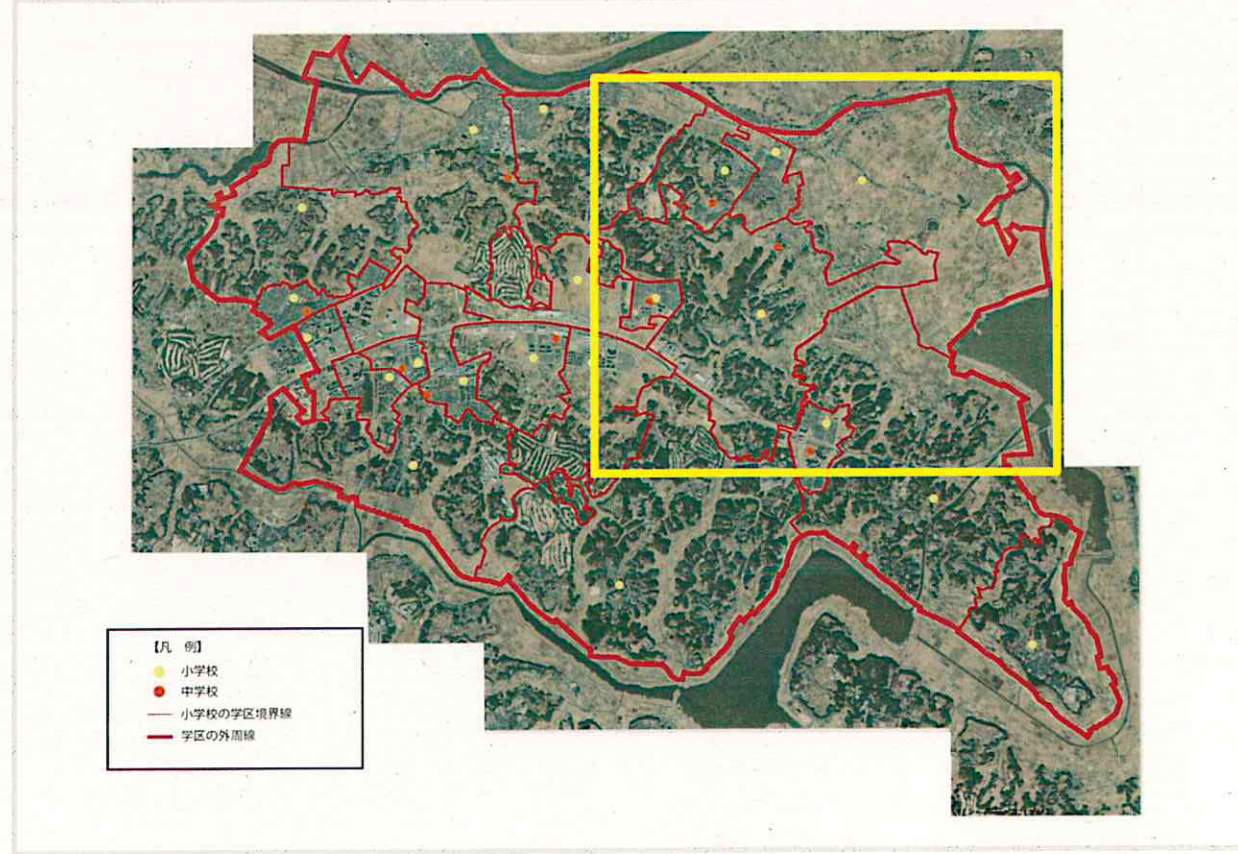
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
本笠第一小+滝野小+本笠第二小⇒新滝野小	適正	○	△	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 ・本笠第一小及び本笠第二小の中学校区が本笠中から滝野中に変更となる。

※ 施設受入面：○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
※ 通距離通学(道路)：○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

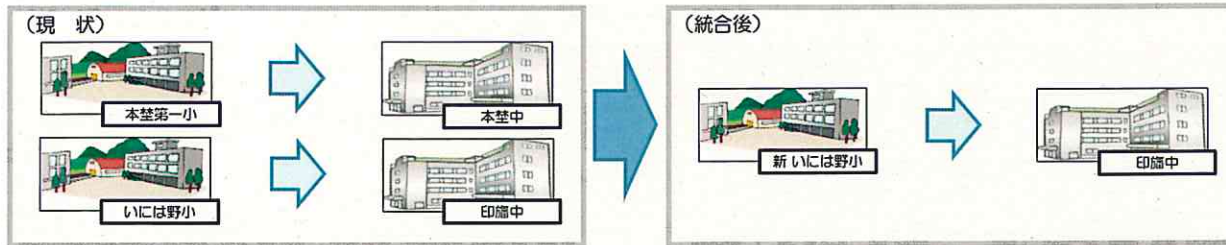
<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション（案）【本笠第一小+いには野小】



項目	本笠第一小学校	いには野小学校	新しいは野小学校
① 所在	印西市中根1281-2	印西市若萩3-9	印西市若萩3-9
② 開校年	明治21年	平成12年	平成12年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 22教室 (H27: 特支 4教室)	総数 22教室 (H27: 特支 4教室)
④ 児童数の推移	H27: 45名 → H33: 78名 33名の増	H27: 497名 → H33: 389名 108名の減	H27: 542名 → H33: 467名 75名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 18学級 → H33: 13学級 5学級の減	H27: 18学級 → H33: 15学級 3学級の減
⑥ 通学区域	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 通距離地域: 直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西: 約1.1km・南北: 約1.7km 通距離地域: 直線 約1.1km・道路 約1.4km	東西: 約5.9km・南北: 約5.4km 通距離地域: 直線 約4.9km・道路 約6.0km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かでたくましい子どもの育成	たくましく 豊かな心をもち 最後まで学び通す子どもの育成	たくましく 豊かな心をもち 最後まで学び通す子どもの育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者18人/学区の児童数62人 割合: 29.0% 主な就学先 滝野小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 学区が広い児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 地域、保護者の教育への関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする風風が代々引き継がれている。 地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は千葉ニュータウンの一番東側に宅地造成された地区に新設された。 学校の周辺は、緑豊かな自然環境に恵まれている。また、学校・駅・公園・歩道等のバリアフリー化が図られており、街全体が高齢者や身体障害者にやさしいつくりとなっている。 校舎は、地域社会とのつながりを考えたつくりとなっています。 学区は、美瀬・舞姫・若萩の3地区からなり、児童数は、若萩地区が増加している。 保護者の教育に対する関心は非常に高く、教育活動へのボランティア活動にも積極的に参加していただいている。 	

<児童数・学級数の推移>

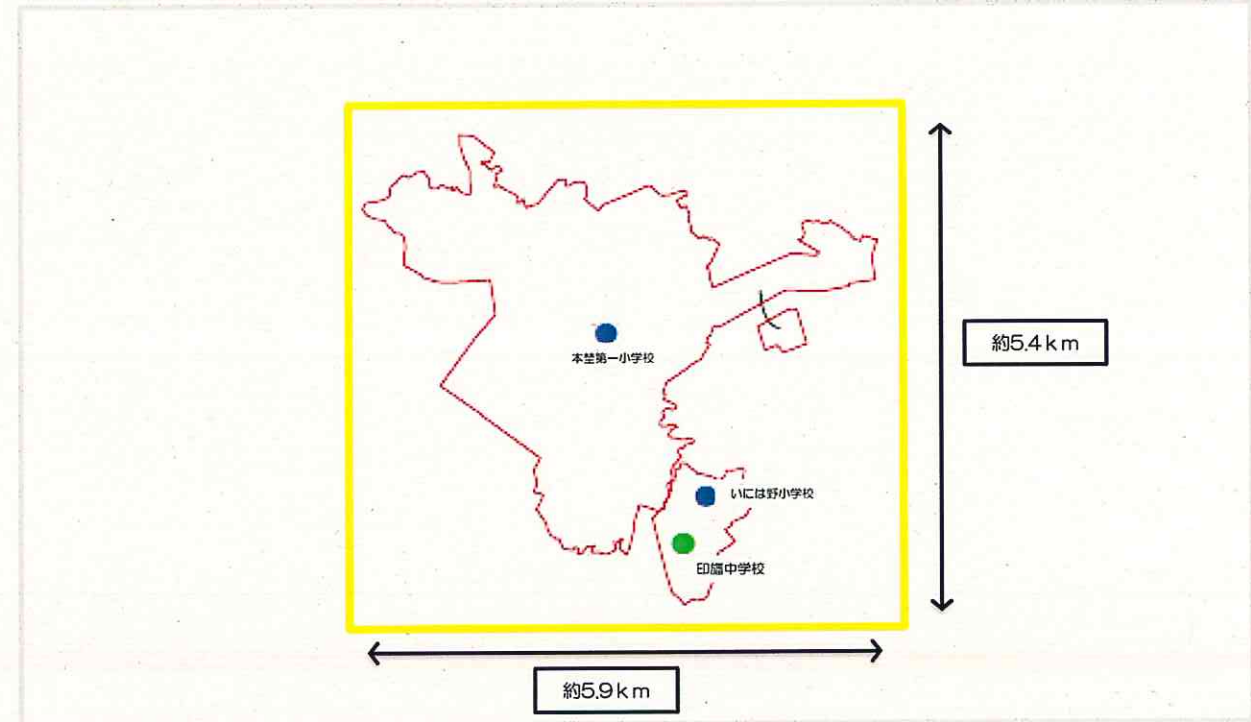
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本笠第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
いには野小学校	497	18	492	17	480	16	463	15	440	14	414	14	389	13
新しいは野小学校	542	18	537	18	535	18	530	18	513	18	493	17	467	15

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

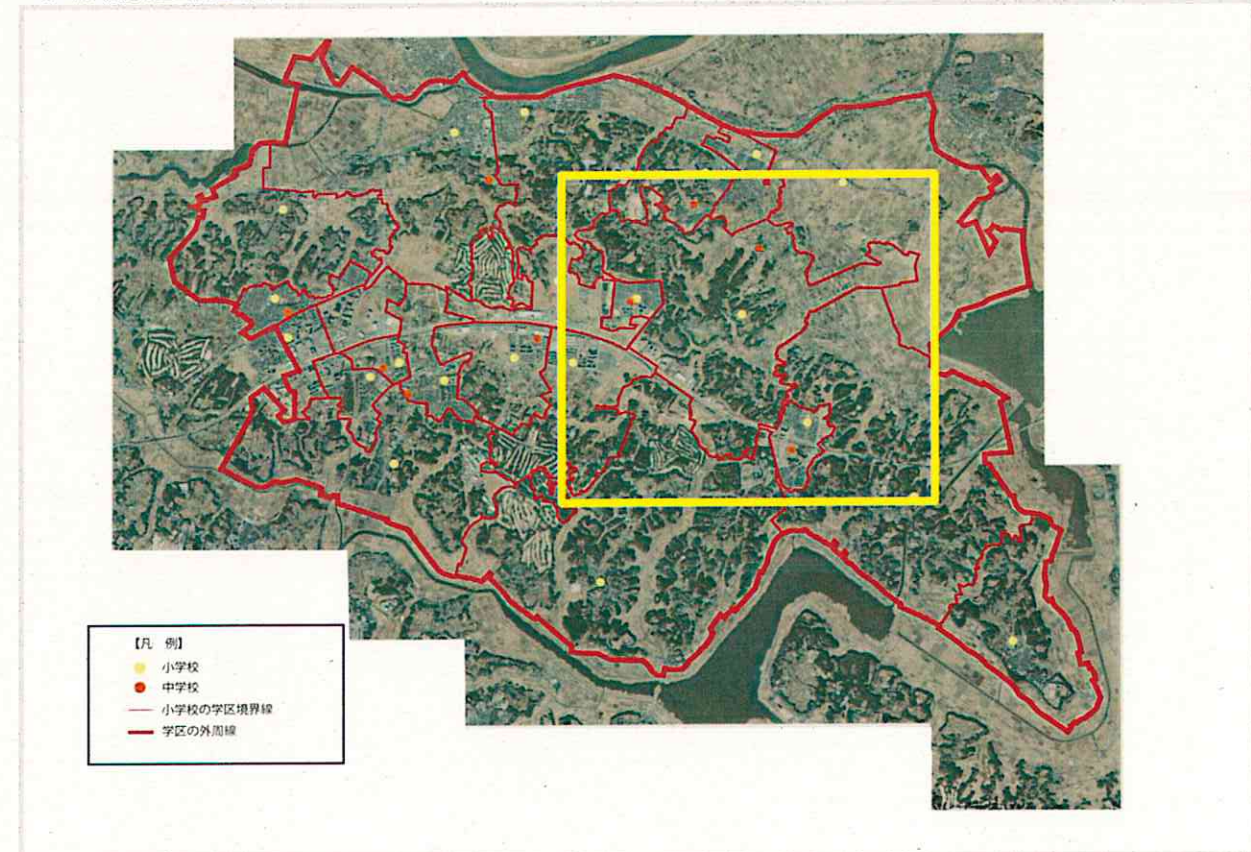
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
本笠第一小+いには野小⇒新しいは野小	適正	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 本笠第一小の中学校区が本笠中から印籠中に変更となる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 通距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

<通学区域図>

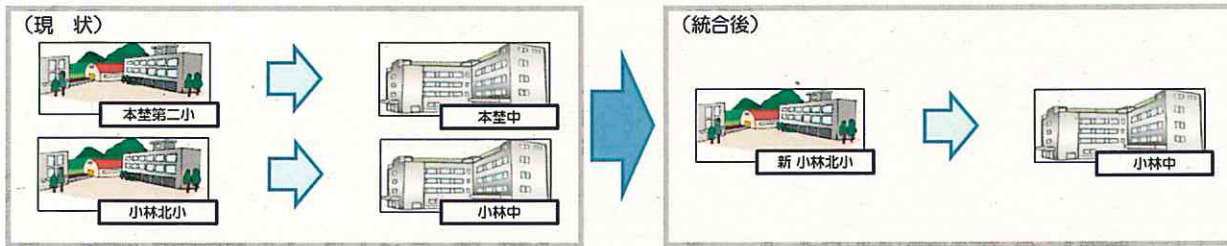


<小中学校分布図(航空写真)>



【凡 例】
 ● 小学校
 ● 中学校
 — 小学校の学区境界線
 — 学区の外周線

学校適正配置のシミュレーション（案）【本笠第二小+小林北小】



項目	本笠第二小学校	小林北小学校	新小林北小学校
① 所在	印西市笠神1745	印西市小林北5-1-5	印西市小林北5-1-5
② 開校年	明治6年	平成3年	平成3年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 15教室 (H27: 特支 2教室)	総数 15教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 67名 → H33: 36名 31名の減	H27: 172名 → H33: 138名 34名の減	H27: 239名 → H33: 174名 65名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 6学級 → H33: 5学級 1学級の減	H27: 6学級 → H33: 6学級 増減なし	H27: 10学級 → H33: 6学級 4学級の減
⑥ 通学区	東西: 約5.0km・南北: 約4.7km 遠距離地域: 直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西: 約1.6km・南北: 約2.0km 遠距離地域: 直線 約1.1km・道路 約1.6km	東西: 約5.6km・南北: 約4.7km 遠距離地域: 直線 約5.0km・道路 約5.8km
⑦ 教育目標	豊かな心を持ちたくましく生きる児童の育成	心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成	心豊かで、進んで学ぶ、丈夫な子の育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者5人/学区の児童数71人 割合: 7.0% 主な就学先 小林北小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の北東部に位置し、周辺には印旛沼の水を利用した田園風景が広がっている。 冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生生物の保護活動として認められ、平成27年度に日本鳥類保護連盟から表彰を受けた。 体力・健康づくりにも動んでおり、平成24年度・25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元気アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校はJR小林駅周辺の新興住宅地の開発に伴い、小林小学校から分離独立して開校した。 児童数は一時期増加したが、その後は減少している。 保護者は、地元小林地区で生まれ育った人と、各地から転居してきた人とが、地域や学校の活動を通して、協力する体制ができており、学校に対しても協力的であり、また、学校への期待も大きい。 地域の方々による子ども達の安全・安心を守る活動が行われ、教育環境の良い地域づくりが進められている。 	

<児童数・学級数の推移>

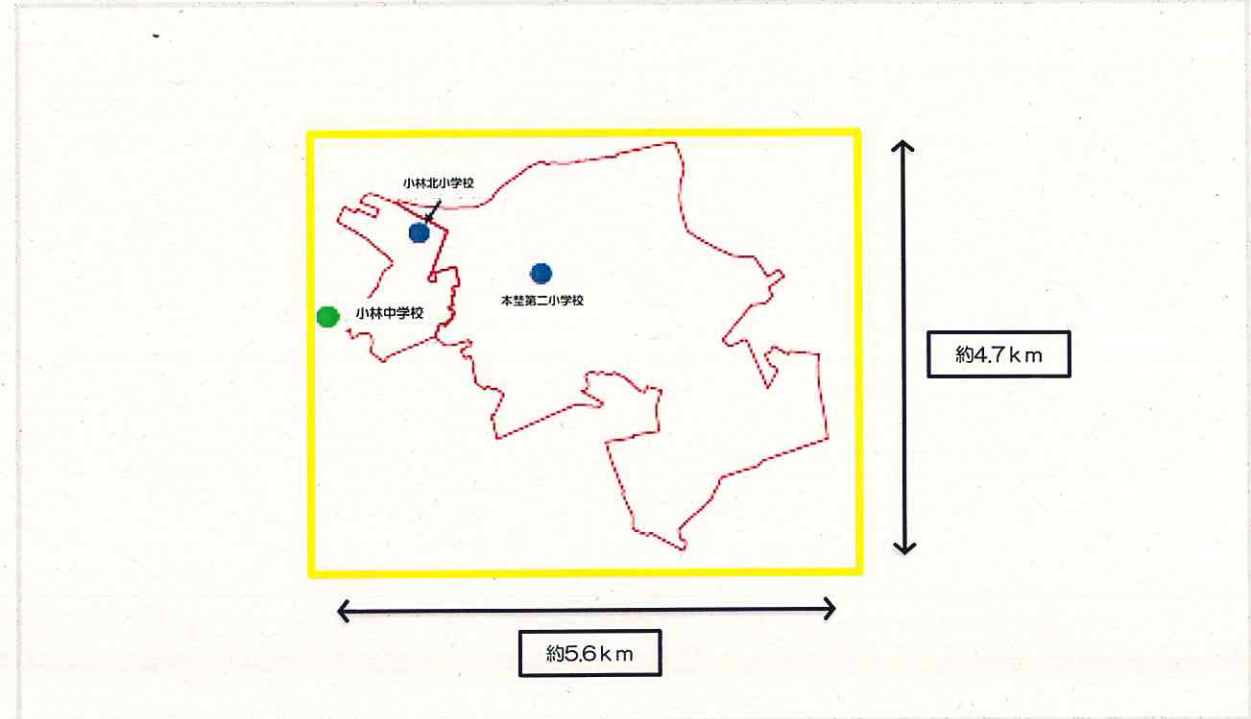
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本笠第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
小林北小学校	172	6	170	6	171	6	168	6	159	6	146	6	138	6
新小林北小学校	239	10	228	9	223	8	212	8	203	7	185	6	174	6

<学校適正配置シミュレーション（案）の考察>

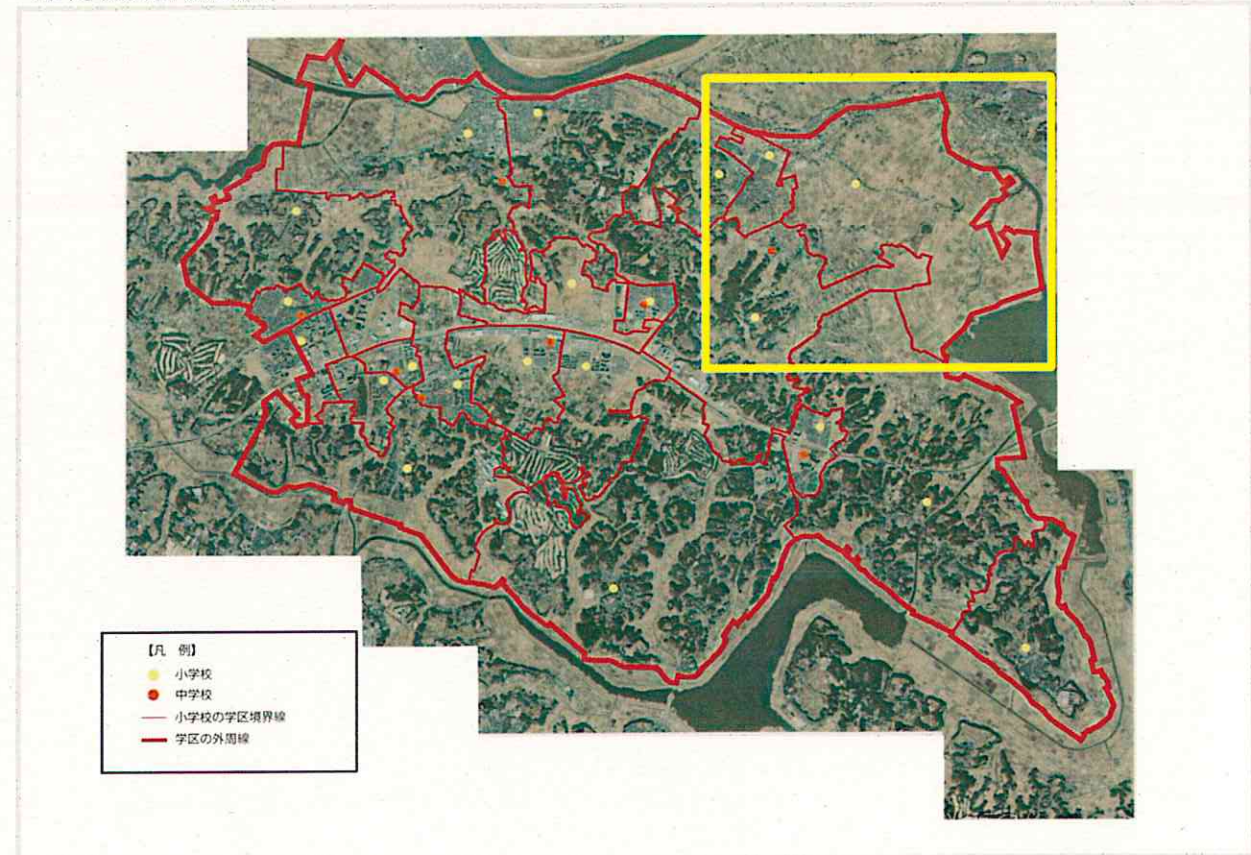
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学(道路)	特記事項
本笠第二小+小林北小⇒新小林北小	小規模	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 学校規模が適正配置後も小規模校となる。 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 本笠第二小の中学校区が本笠中から小林中に変更となる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △通学距離が4.1km以上

<通学区図>



<小中学校分布図(航空写真)>



学校適正配置のシミュレーション(案)【本笠第一小+本笠第二小+本笠中】



項目	本笠第一小学校	本笠第二小学校	本笠中学校	新義務教育学校
① 所在	印西市中根1281-2	印西市五神1745	印西市五神250	印西市五神250(本笠中学校を拠点とした場合)
② 開校年	明治21年	明治6年	昭和22年	
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 7教室 (H27: 特支 1教室)	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 45名 → H33: 78名 33名の増	H27: 67名 → H33: 36名 31名の減	H27: 62名 → H33: 47名 15名の減	H27: 171名 → H33: 161名 10名の減(左記小中学校の合併値)
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 6学級 1学級の増	H27: 6学級 → H33: 5学級 1学級の減	H27: 3学級 → H33: 3学級 増減なし	H27: 9学級 → H33: 9学級 増減なし(左記小中学校の合併値を基に算出)
⑥ 通学区域	東西: 約5.9km・南北: 約3.9km 通距離地域: 直線 約2.4km・道路 約3.2km	東西: 約5.0km・南北: 約4.7km 通距離地域: 直線 約2.8km・道路 約3.9km	東西: 約7.8km・南北: 約6.4km 通距離地域: 直線 約4.5km・道路 約5.5km	東西: 約7.8km・南北: 約6.4km 通距離地域: 直線 約4.5km・道路 約5.5km
⑦ 教育目標	自ら考え行動できる 心豊かでたくましい子どもの育成	豊かな心を持ちたくましく生きる 児童の育成	豊かな心を持ち、一人ひとりの生徒が 光がやぐ学校	
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者18人/学区の児童数62人 割合: 29.0% 主な就学先 滝野小学校	H27: 対象者5人/学区の児童数71人 割合: 7.0% 主な就学先 小林北小学校	H27: 対象者12人/学区の児童数71人 割合: 16.9% 主な就学先 滝野中学校	
⑨ 学校等の特徴	・学区は、印西市の北東部に位置し、丘陵地帯と谷津地帯に古くから住んでいる住民がほとんどである。 ・学区が広いため児童は徒歩とスクールバスで登下校している。 ・専業農家は少なく兼業農家がほとんどである。 ・地域、保護者の教育への関心は高く、歴史ある学校を大事にしようとする気風が代々引き継がれている。 ・地区ごとの結びつきが強く、PTA活動も円滑に進められている。 ・児童は明るく、素直でありのびのびと学校生活を送っている。	・本校は市の北東部に位置し、周辺には印西沼の水を利用した田圃風景が広がっている。 ・冬になると近くの田んぼに1000羽を超える白鳥が飛来する。 ・学校では、この豊かな自然環境を生かした教育活動を地域の方々の協力を得て進めている。こうした活動が野生動物の保護活動として認められ、平成27年度に日本鳥類保護連盟から表彰を受けた。 ・体力・健康づくりに取り組んでおり、平成24年度・25年度の2年連続で、千葉県教育委員会より「元気アップ・プラン大作戦コンクール」の優秀賞を、また、平成26年度には「学校健康教育表彰」を受けた。	・本校はJR成田線小林駅から南東へ約2km、徒歩20分に位置し、利根川、印西沼と隣接している水郷地帯と台地を中心とした2つの地域で構成されている。 ・学区の大半は米作を中心とした豊かな農業地帯として発展してきたが、現在は夫婦共働きや兼業農家が少なく、三世帯家族が大半を占めている。 ・地元への愛着心が強く、またPTA・学校行事等、学校教育活動に対しても協力的である。	

<児童数・学級数の推移>

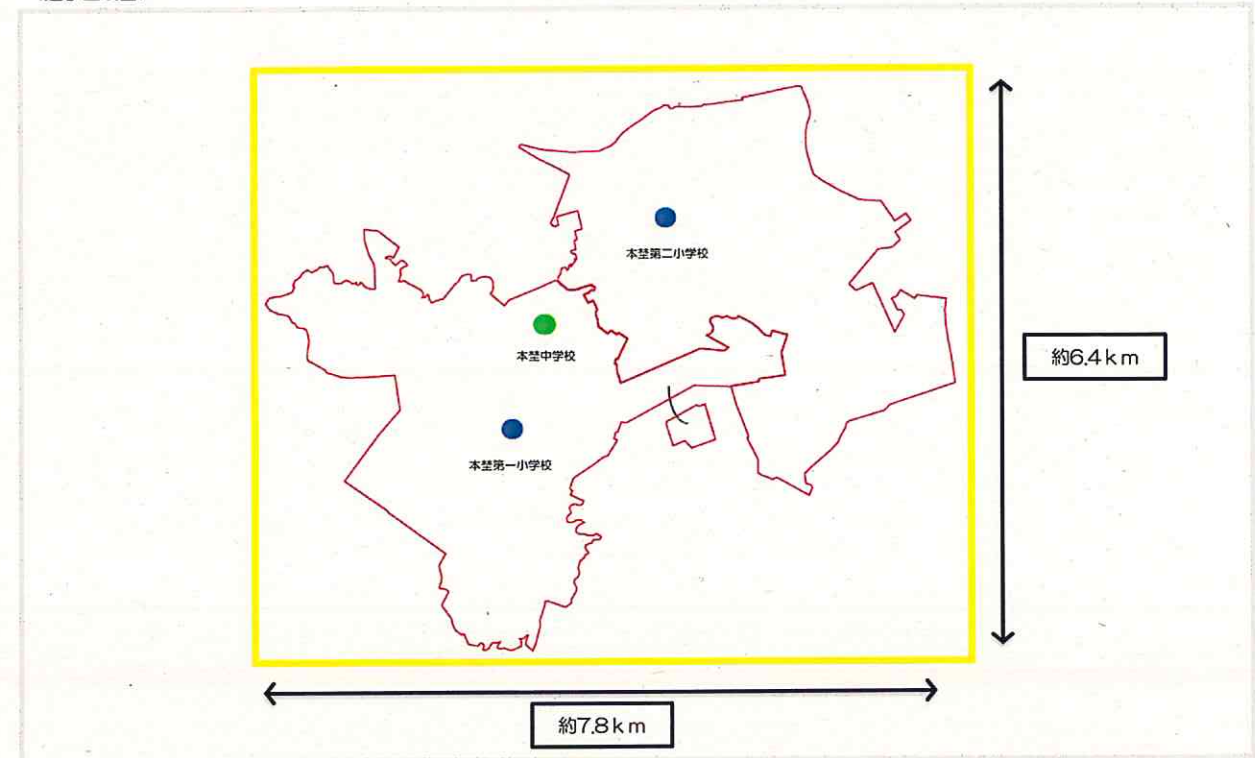
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
本笠第一小学校	45	5	45	5	55	5	67	6	73	6	79	6	78	6
本笠第二小学校	67	6	58	6	52	6	44	6	44	5	39	5	36	5
新義務教育学校 前期課程	112	6	103	6	107	6	111	6	117	6	118	6	114	6
新義務教育学校 後期課程	59	3	64	3	65	3	65	3	52	3	51	3	47	3
新義務教育学校 全体	171	9	167	9	172	9	176	9	169	9	169	9	161	9

<学校適正配置シミュレーション(案)の考察>

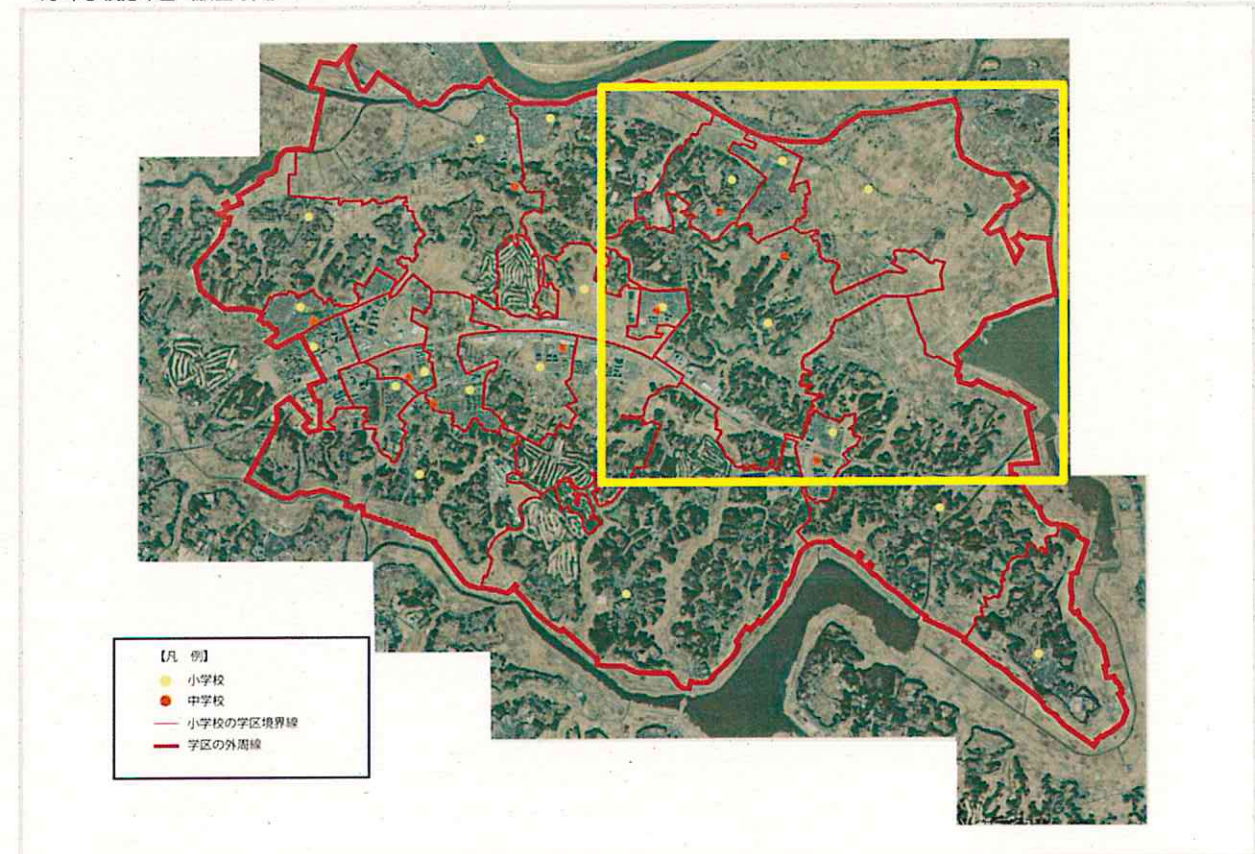
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	通距離通学(道路)	特記事項
本笠第一小+本笠第二小+本笠中⇒新義務教育学校(前期)	小規模	×	△	・小中一貫の義務教育学校となる。 ・前期課程及び後期課程ともに学校規模が適正配置後も小規模校となる。
本笠第一小+本笠第二小+本笠中⇒新義務教育学校(後期)	小規模	×	○	・通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 通距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下(中学校は6.0km以下) △通学距離が4.1km以上(中学校は6.1km以上)

<通学区域図>

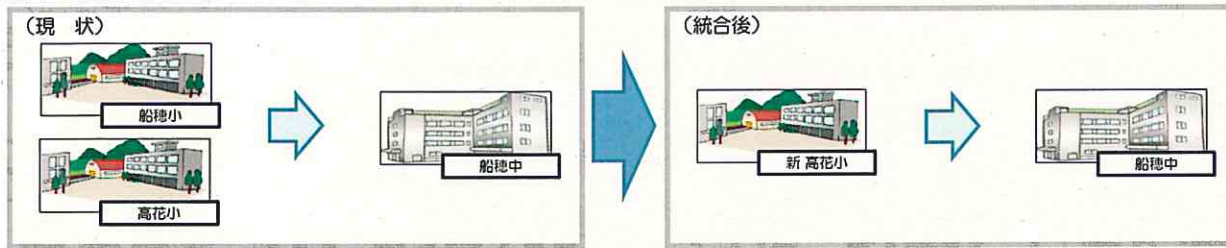


<小中学校分布図(航空写真)>



【凡 例】
 ● 小学校
 ● 中学校
 〇 小学校の学区境界線
 〇 学区の外周線

学校適正配置のシミュレーション（案）【船穂小+高花小】



項目	船穂小学校	高花小学校	新 高花小学校
① 所在	伊西市船尾1292	伊西市高花2-4	伊西市高花2-4
② 開校年	明治6年	平成3年	平成3年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)	総数 28教室 (H27: 特支 2教室)	総数 28教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 51名 → H33: 50名 1名の減	H27: 308名 → H33: 250名 58名の減	H27: 359名 → H33: 300名 59名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 5学級 増減なし	H27: 11学級 → H33: 11学級 増減なし	H27: 12学級 → H33: 11学級 1学級の減
⑥ 通学区域	東西: 約5.1km・南北: 約3.1km 遠距離地域: 直線 約2.3km・道路 約3.0km	東西: 約1.7km・南北: 約2.2km 遠距離地域: 直線 約1.5km・道路 約2.5km	東西: 約5.1km・南北: 約5.2km 遠距離地域: 直線 約3.6km・道路 約4.4km
⑦ 教育目標	次代を担う心豊かでたくましく生きる児童の育成	やさしい子 考える子 元気な子	やさしい子 考える子 元気な子
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者13人/学区の児童数64人 割合: 20.3% 主な就学先 高花小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の西南部に位置し、南部は八千代市に隣接している。 自然環境がたくさん残っていて、子どもの成長に大いに役立っている。 ほとんどの家庭が稲作中心の専業農家を営んできたが、都市化とともに花卉栽培や野菜栽培を営む兼業農家へ変遷してきた。 学校の前を通る県道伊西・電ヶ崎線は車の往来が激しく、徒歩通学が主であるため、地域をあげて安全教育に取り組んでいる。 児童昇降口には、大正6年から昭和60年までの歴代卒業生の集合写真を掲示している。また、職員玄関や資料室には、昔のオルガンや電話機などの他、田下駄や脱穀機などの農機具を展示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校は千葉ニュータウンの中心地にあり、平成3年4月に千葉ニュータウン15住区に新設された。 かつて、この地域は山林原野であったが、千葉ニュータウン計画により、宅地造成が急ピッチで進められ、現在の住宅地区となっている。そのため、市外から転入してきた新住民が多数を占める。 また、北総開発鉄道の開通により都心への通勤が容易になり、開校後数年間は学区の人口も増加傾向にあったが、現在の宅地開発は停滞している。 平成25年度におやじの会が発足し、校内環境や校外パトロールに協力をいただいている。保護者は、教育への関心も高く、保護者会・授業参観の出席率も高い。 	

＜児童数・学級数の推移＞

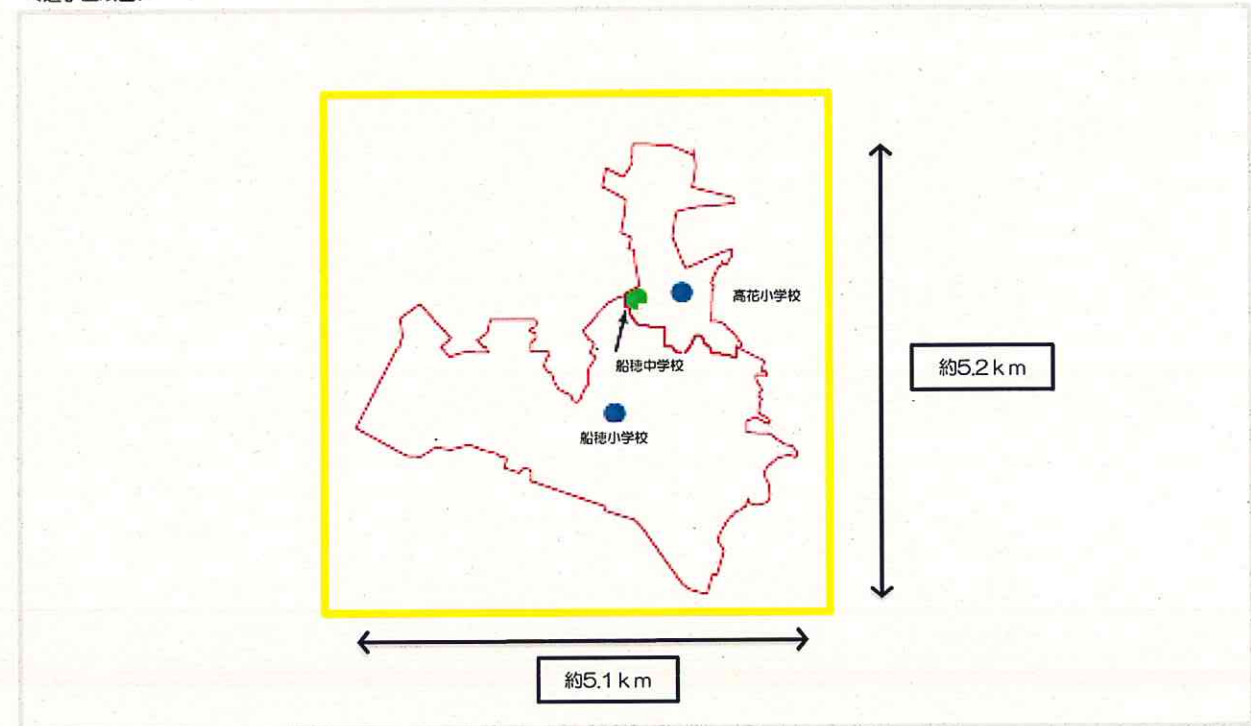
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
船穂小学校	51	5	52	6	51	6	60	6	61	6	55	6	50	5
高花小学校	308	11	298	11	311	12	305	12	290	12	271	12	250	11
新 高花小学校	359	12	350	12	362	12	365	12	351	12	326	12	300	11

＜学校適正配置シミュレーション（案）の考察＞

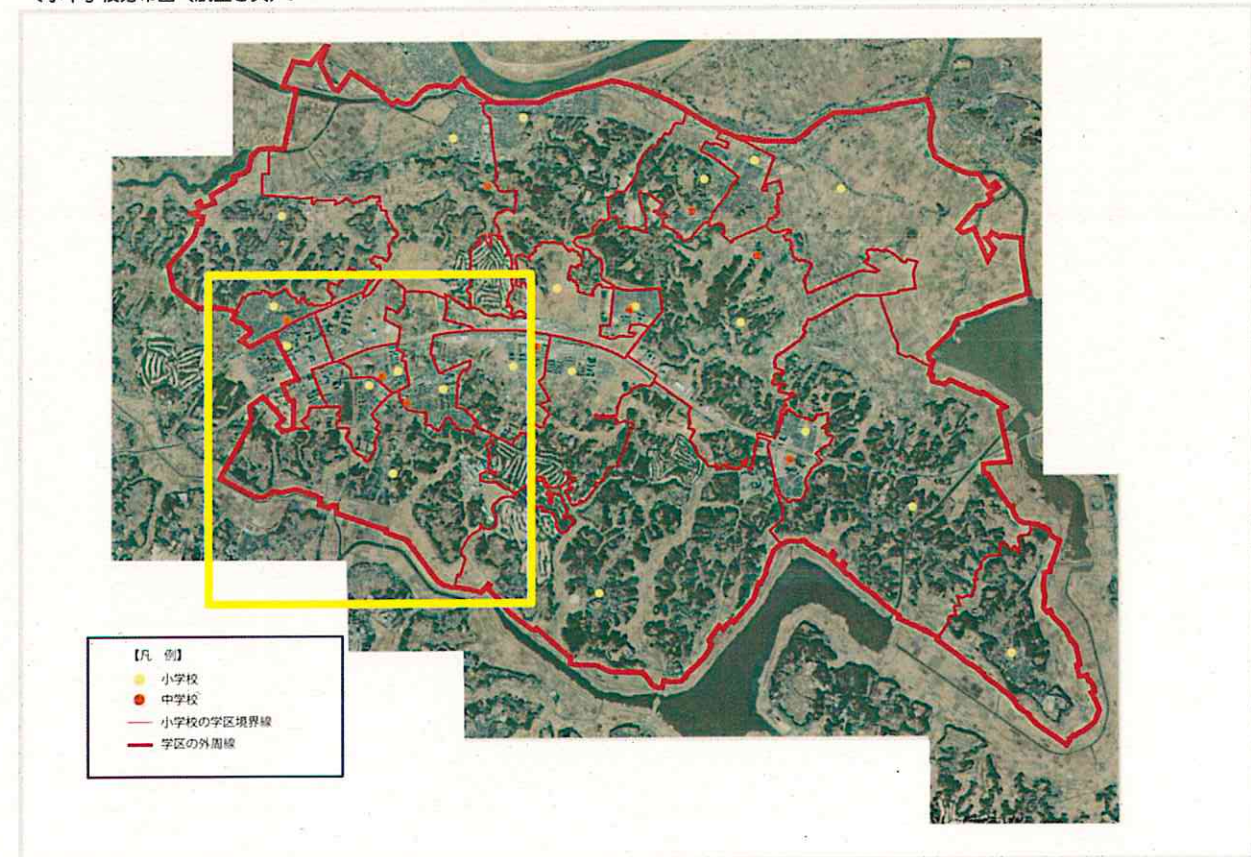
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学(道路)	特記事項
船穂小+高花小⇒新 高花小	準適正	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 船穂中学校区が高花小1校となるため、小学校時代に培われた人間関係が維持されやすくなる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

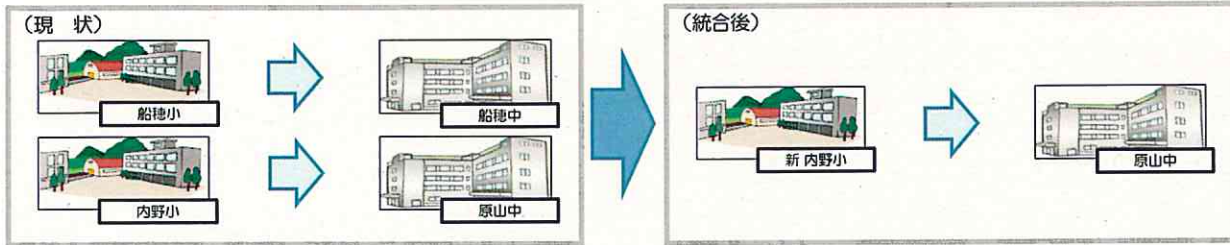
＜通学区域図＞



＜小中学校分布図（航空写真）＞



学校適正配置のシミュレーション(案)【船穂小+内野小】



項目	船穂小学校	内野小学校	新内野小学校
① 所在	印西市船尾1292	印西市内野1-1	印西市内野1-1
② 開校年	明治6年	昭和59年	昭和59年
③ 教室保有数等	総数 7教室 (H27: 特支 2教室)	総数 26教室 (H27: 特支 2教室)	総数 26教室 (H27: 特支 2教室)
④ 児童数の推移	H27: 51名 → H33: 50名 1名の減	H27: 344名 → H33: 335名 9名の減	H27: 395名 → H33: 385名 10名の減
⑤ 学級数の推移	H27: 5学級 → H33: 5学級 増減なし	H27: 12学級 → H33: 12学級 増減なし	H27: 13学級 → H33: 13学級 増減なし
⑥ 通学区域	東西: 約5.1km・南北: 約3.1km 遠距離地域: 直線 約2.3km・道路 約3.0km	東西: 約1.4km・南北: 約1.7km 遠距離地域: 直線 約0.8km・道路 約1.3km	東西: 約5.1km・南北: 約3.8km 遠距離地域: 直線 約3.5km・道路 約4.3km
⑦ 教育目標	次代を担う心豊かでたくましく生きる児童の育成	自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成	自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を備えた子どもの育成
⑧ 学区外就学の状況(出)	H27: 対象者13人/学区の児童数64人 割合: 20.3% 主な就学先 高花小学校		
⑨ 学校等の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は市の西南部に位置し、南部は八千代市に隣接している。 自然環境がたくさん残っていて、子どもの成長に大いに役立っている。 ほとんどの家庭が稲作中心の専業農家を営んできたが、都市化とともに花卉栽培や野菜栽培を営む兼業農家へ変遷してきた。 学校の前を通る県道印西・竜ヶ崎線は車の往来が激しく、徒歩通学が主であるため、地域をあげて安全教育に取り組んでいる。 児童昇降口には、大正6年から昭和60年までの歴代卒業生の集合写真を掲示している。また、職員玄関や資料室には、昔のオルガンや電話機などの他、田下駄や脱穀機などの農機具を展示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和59年の千葉ニュータウン中央エリアの街開きと同時に内野地区の第一期の入居が始まり本校が開校した。 開校後10年間は、内野地区への入居が進み児童数も増加したが、平成5年を境に児童数の減少が続いた。今後は、戸神台地区のマンション等の建設により、再び児童数の増加が見込まれている。 学区は、1km以内に入る範囲にあり、そのほとんどが宅地である。 本校の北側には原山中学校が、また、北東には原山小学校があり、狭い地域に小中学校3校が存在している。 平成12年4月には学区内に「県立北総花の丘公園」が開園され、県民の憩いの場になっている。 	

<児童数・学級数の推移>

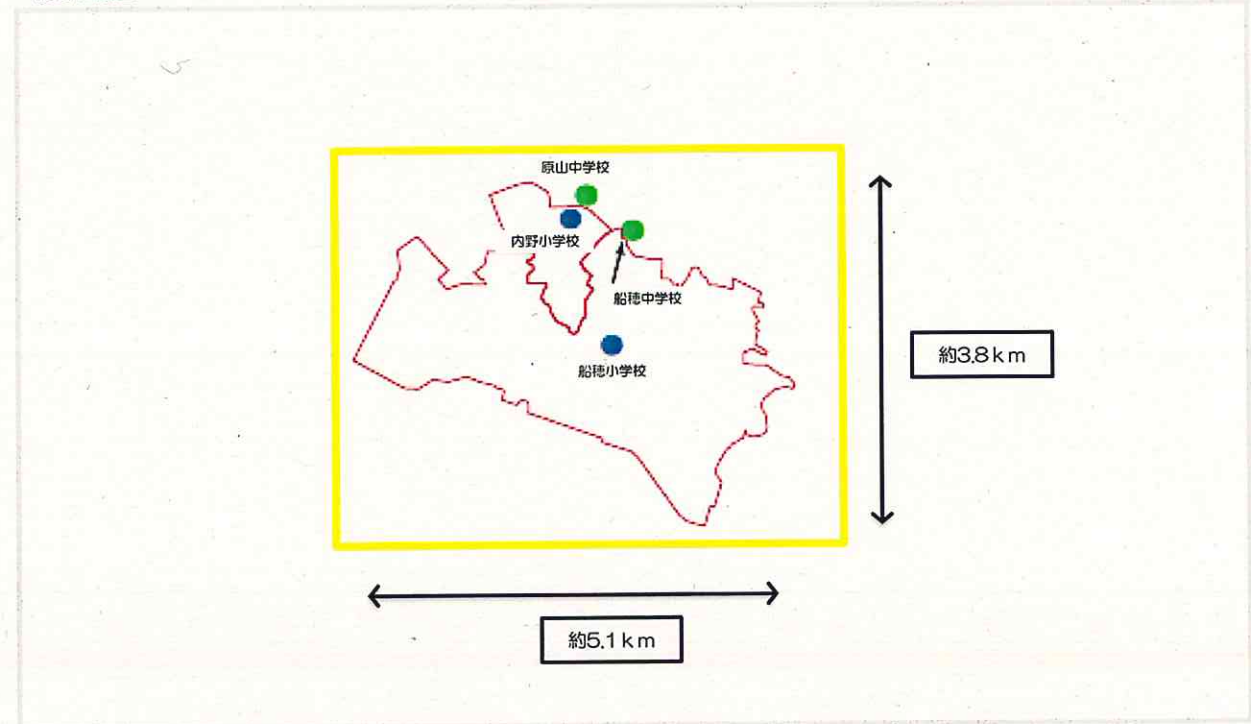
学校名	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
船穂小学校	51	5	52	6	51	6	60	6	61	6	55	6	50	5
内野小学校	344	12	346	12	342	12	352	12	345	12	334	12	335	12
新内野小学校	395	13	398	13	393	13	412	14	406	14	389	13	385	13

<学校適正配置シミュレーション(案)の考察>

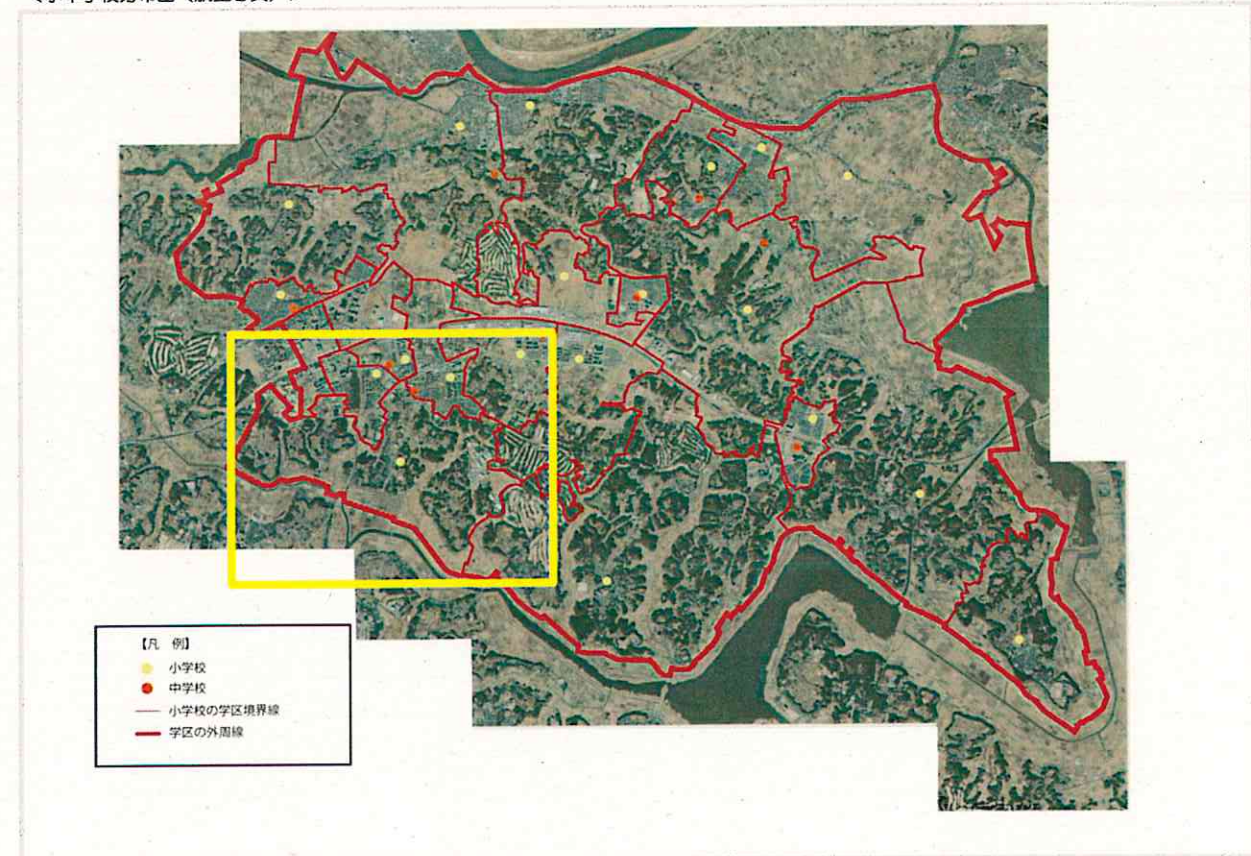
学校適正配置の組合せ	学校規模	施設受入面	遠距離通学(道路)	特記事項
船穂小+内野小⇒新内野小	適正	○	△	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が4kmを超える児童が発生する可能性がある。 船穂小の中学校区が船穂中から原山中に変更となる。 船穂中学校区が高花小1校となるため、小学校時代に培われた人間関係が維持されやすくなる。

※ 施設受入面: ○…受入小学校の教室総数 ≥ 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数 △…受入小学校教室総数 < 適正配置後の学級数+H27特別支援教室数
 ※ 遠距離通学(道路): ○…通学距離が4.0km以下 △…通学距離が4.1km以上

<通学区域図>



<小中学校分布図(航空写真)>



(1) 印西市立小・中学校の学校運営費及び学校新設費

① 学校運営費について

1校当たり	小学校	534,140千円 ÷ 20校 ÷ 26,707千円
	中学校	310,841千円 ÷ 9校 ÷ 34,537千円
1人当たり	小学校	534,140千円 ÷ 児童数 5,551人 ÷ 97千円
	中学校	310,841千円 ÷ 生徒数 2,464人 ÷ 126千円

※平成27年度地方教育費調査（平成26会計年度）を基に算出

※学校運営費に含めなかった費用：

人件費（県費）、退職金、土地費、建築費、債務償還金、学校給食費、その他教育委員会が主催する事業運営費等

※児童・生徒数は、平成26年5月1日現在の特別支援を含めた人数

【内訳（参考）】

支出項目	平成26年度決算額（千円）	
	小学校	中学校
学校運営費	534,140	310,841
A 消費的支出	499,039	299,067
1 人件費	177,782	74,709
① 市費負担職員給与	164,766	69,635
② 共済組合等負担金	13,016	5,074
2 教育活動費	51,847	68,616
3 管理費	230,694	118,343
① 修繕費	31,756	16,247
② その他の管理費	198,938	102,096
4 補助活動費	27,354	14,733
5 所定支払金	11,362	22,666
B 資本的支出	35,101	11,774
1 設備・備品費	33,149	10,300
2 図書購入費	1,952	1,474

② 学校新設費について

支出項目	執行額（千円）
学校新設費	3,712,767
1 用地取得費	1,221,000
2 基本・実施設計費	84,420
3 工事費（造成費・建築費等）	2,263,949
4 消耗品・備品（管理・教材・図書）	94,359
5 その他（基本計画・工事監理等）	49,039

印西市学校適正配置審議会設置条例

(設置)

第1条 印西市立小学校及び中学校（以下「公立学校」という。）の配置の適正化を図るため、印西市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の附属機関として、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、印西市学校適正配置審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、公立学校の適正な配置について調査及び審議し、その結果を教育委員会に答申する。

(組織)

第3条 審議会は、委員6人以内で組織する。

(委員)

第4条 委員は、知識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第6条 審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 審議会は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 審議会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、教育委員会教育部学務課において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成27年4月1日から施行する。

印西市学校適正配置審議会 委員名簿

知識経験者 6名

任期：平成 27 年 5 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日

番号	氏名	所属等	備考
1	明石 要一	千葉敬愛短期大学長	
2	吉田 劭	元印西市教育委員長	
3	篠原 英光	元小学校長	
4	並木 進	安食台小学校長	
5	内田 圭子	滝野中学校長	
6	齊藤 秀樹	原小学校長	

印西教学第 182 号
平成 27 年 5 月 25 日

印西市学校適正配置審議会 様

印西市教育委員会

印西市立小学校及び中学校の適正配置について（諮問）
下記のことについて、印西市学校適正配置審議会設置条例（平成 27 年条例第 5 号）第 2 条の規定により諮問します。

記

1 諮問事項

印西市立小学校及び中学校の適正配置について

2 諮問理由

（1）趣旨

印西市の児童生徒数は、全体として緩やかな増加傾向にあるものの、少子化の進展により減少している地域と宅地開発により増加している地域が混在しており、小・中学校の小規模化と大規模化が同時に進行している状況にあります。

これまで教育委員会では、学校規模により生じる影響について教育指導面と学校運営面を中心に検討を進め、平成 27 年 3 月に「印西市における小・中学校適正規模の考え方」をまとめました。

今後、児童生徒のより良い教育環境の整備と教育の質の向上を図るため、この考え方を踏まえ、小・中学校の適正配置について検討を進めたいと考えています。

（2）審議事項

①学校適正配置のあり方について

「印西市における小・中学校の適正規模の考え方」を踏まえ、学校適正配置のあり方について審議をお願いします。

②学校適正配置の取り組み方について

学校適正配置のあり方を踏まえ、学校適正配置の取り組み方、留意すべき事項について審議をお願いします。

印西市適正配置審議会の審議経過

区 分	開催日	主な審議事項
第1回	平成27年5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱、会長及び副会長の選出 ・諮問 ・印西市における学校適正配置について ・印西市立小学校及び中学校の現状について
第2回	平成27年6月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市の教育施策について ・印西市における小・中学校適正規模の考え方について ・印西市立小学校及び中学校の現状について
第3回	平成27年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・現地視察の行程について ・現地視察
第4回	平成27年9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市立小中学校の現状について ・印西市立小中学校の適正配置のあり方について（案）
第5回	平成27年11月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市立小中学校の現状について ・学校適正配置の取り組み方について ・学校適正配置のあり方について ・学校適正配置のシミュレーション（案）
第6回	平成28年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市立小中学校の現状について ・学校適正配置のシミュレーション（案） ・学校適正配置の取り組み方について
第7回	平成28年2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校適正配置のシミュレーション（案） ・学校適正配置の取り組み方について ・印西市立小学校及び中学校の適正配置の答申（素案）について
第8回	平成28年3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市立小学校及び中学校の適正配置の答申（案）について ・答申

印西市における小・中学校
適正規模の考え方

平成27年3月

印西市教育委員会

印西市における小・中学校適正規模の考え方

1 はじめに

本市における児童生徒数は、全体としてわずかながら増加傾向にあるものの、少子化の進展等により減少している地域と宅地開発等により増加している地域が混在している。そのため、学校の小規模化と大規模化が同時に進行し、規模の差は年々拡大する傾向にある。このことは、学校の教育内容や活動に大きな影響を及ぼし、子ども達の教育条件・環境に不均衡を生む恐れがあることが懸念されている。

このことから、学校の小規模化や大規模化によって生じる教育指導上・学校運営上の課題を解消するとともに、より良い教育環境を整え、教育の質の向上を図ることが喫緊の課題となっている。

このような状況を踏まえ、学校の大規模化・小規模化により生じる教育指導面・学校運営面での課題を整理するとともに、学校運営を直接行っている印西市校長会とも協議し、印西市における小・中学校適正規模の考え方をまとめた。

2 小中学校の状況

(1) 児童生徒数の現状と推移

平成26年12月1日現在の児童生徒数は、8,028名である。

今後の推移については、住民基本台帳に基づき推計すると、小学校は平成31年度まで、中学校は平成33年度まで増加傾向にある。

児童生徒数の増加傾向は、市全域に及ぶものではなく、特に木刈中学校区及び西の原中学校区で顕著である。一方、他の中学校区においては、児童生徒数の減少傾向が見られる。

児童生徒数による学校規模の差は、平成26年度で小学校が約1.8倍、中学校が約8倍であるが、平成33年度には小学校で約3.2倍、中学校で約1.7倍となり、その差はさらに拡大することが推測される。

(2) 学級数の現状と推移

平成26年12月1日現在の小学校及び中学校の通常学級数は、289学級である。

学級数による学校規模の拡大傾向は、児童生徒数と同様に、木刈中学校区及び西の原中学校区で顕著である。一方、他の中学校区においては規模の縮小傾向が見られ、特に市街化調整区域内にある小学校の多くは、1学級の人数も少なく、現在又は将来複式学級を編制しなければならない状況にある。

学級数による学校規模の差は、平成26年度で小学校が約5倍、中学校が

約4倍であるが、平成33年度には小学校で約7倍、中学校で約8倍となり、その差はさらに拡大することが推測される。

3 学校規模による学校教育への影響

(1) 小規模校化することによる課題

①教育指導面

- 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合う機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。
- 学年1学級の場合、学級間の相互啓発の取組ができない。
- 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じる。
- グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取れない場合がある。
- 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まる。
- 人間関係や相互の評価等が固定化する傾向にある。
- 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。
- 学校全体での組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じる。

②学校運営面

- 教職員数が少ないため、経験・教科・特性などの面でバランスのとれた配置ができない。
- 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等について、相談・研究・協力・切磋琢磨する機会が少なくなる。
- 教職員一人に校務分掌が集中する。
- 教員の出張・研修等の調整が難しい。
- 中学校の各教科の免許を持つ教員を配置できない。

(2) 大規模校化することによる課題

①教育指導面

- 児童生徒一人ひとりに目が行き届きにくい。
- 学校行事や部活動において、児童生徒一人ひとりの個別の活躍の場が少なくなる。
- 学年内・異学年間の交流が不十分になる。

②学校運営面

- 教職員相互の連絡調整がとりづらくなる。
- 施設設備の利用の面から、教育活動に一定の制約が生じる場合がある。

4 小・中学校適正規模の考え方

学校規模による学校教育の影響などを総合的に勘案し、本市における小・中学校の適正規模に関して次のように考え方をまとめた。

(1) 適正規模の視点

①教育指導上の視点

- クラス替えができ、人間関係が固定化・序列化しないようにすること。
- 自己形成や社会性を育てるために必要な集団生活ができること。
- 集団での学び合いや多様な考え方に触れる機会等、切磋琢磨し、学習意欲や競争心を高める環境を提供できること。
- 運動会や音楽会等の学校行事において、集団による多様な活動ができるようにすること。
- 生徒の興味関心に対応できる、多様な部・クラブ活動が用意できること。
また、部・クラブ活動を実施する上で必要な児童生徒数を確保できること。

②学校運営上の視点

- 同一学年や同一教科において教員が複数配置されることにより、教員同士の学び合いや相談等が容易にできること。
- 中学校において、専任の教科担任を配置できること。
- 出張等において、教員一人あたりの負担が大きくなるようにすること。
- 多面的に子どもを見ることができるようになるようにすること。

(2) 適正規模の考え方

上記の適正規模の視点を踏まえ、本市における適正規模の考え方を次のとおりとする。

①小学校

規模	学級数	状 況	対 応
小	6以下	クラス替えができない。	適正規模化を検討する。
準適正	7～11	クラス替えができない学年がある。	児童数の推移を注視する。
適正	12～24	クラス替えができる。	
大	25以上	児童一人ひとりの把握が難しくなる。また、施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	児童数の推移を注視し、適正規模化を検討する。

②中学校

規模	学級数	状 況	対 応
小	5 以下	クラス替えができない学年がある。また、専任の教科担任を配置できない教科がある。	適正規模化を検討する。
準適正	6～11	クラス替えは可能であるが、専任の教科担任を配置できない教科がある。	生徒数の推移を注視する。
適正	12～24	クラス替えが可能で、専任の教科担任を配置できる。	
大	25 以上	生徒一人ひとりの把握が難しくなる。また、施設利用面から教育活動に支障が生じる場合がある。	生徒数の推移を注視し、適正規模化を検討する。

5 おわりに

今後は、文部科学省が示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」などを参考にし、学校の適正配置についての検討を進めていく必要がある。